理事長報告

社団法人　呉青年会議所
宮下　佳昌

「滅　私　奉　公」

２０１２年度　社団法人　呉青年会議所は、この言葉をスローガンに掲げて活動してまいりました。

あまりにも利己主義が蔓延しているこの現代社会において、東日本大震災において世界中から称賛された、日本人が本来持っている相手のことを気遣いお互いに助け合う精神を取り戻しつつ、青年会議所の原理原則である、自分たちのまちを守るために、地域の課題はその地域に住む私たちで解決していくということを念頭に、４つの基本方針のもと事業を展開してまいりました。

＜基本方針＞

１．　呉市の文化を理解し市民一人ひとりがこのまちを誇りに思う社会の実現
２．　市民一人ひとりが公民としての自覚を持つ市民意識改革
３．　地域に密着した広報活動の実践
４．　高い志を持ったメンバーの育成

以下、基本方針に沿って事業報告させていただきます。

「呉市の文化を理解し市民一人ひとりがこのまちを誇りに思う社会の実現」

近年、全国的に市民協働ということが盛んにうたわれています。文字通り行政と市民が一体となってまちづくりに取り組んでいけば素晴らしい社会になると思います。その原動力は自分たちのまちのことを誇りに思うかどうかだと思います。

平成の大合併により新たに誕生したまちのことを、私たち自身が良く知っているでしょうか。新たに合併した先の名所、史跡・歴史、名産品等のほとんどのことをよく知らないのが現状です。また、もともと住んでいるまちのことでも、身近にありすぎて当たり前と思っていることが、他の地域の人から見るととても新鮮で感動的なものであったりします。

２０１２年は呉市制１１０年の年で新生呉市になって初めて迎える周年の年でした。その絶好の機会に合併した８町を呉市内外の方に知っていただこうと「宝探しイベント　清盛の遺言」と題し、事業を展開してまいりました。本事業は、呉青年会議所が独自で企画・立案・設営するのではなく、呉市行政、地元商工会等の方々、そして呉青年会議所が協働

して、企画・設営を行い、地元の魅力を宝として、呉市内外の方々に知っていただくという事業でした。本事業を通して、まずは地元の魅力に誇りをもち、新生呉市を誇りに思うことができる一助になったと思います。また、本事業を行うに当たり長期間にわたり各地域の方々とのネットワークを築いてこれたことは、呉青年会議所の新たな財産であり、今後の事業展開、そして呉市が掲げる市民協働運動に大きく役立てると考えます。

「市民一人ひとりが公民としての自覚を持つ市民意識改革」

我がまちが生き生きとし、そして、国が発展していくには「公」に尽くすという概念と、それに伴う行動が必要であることを年頭初の私の所信の中で「公」について言及しました。利己主義が蔓延するこの現代社会においても、東日本大震災でみられた、このような混乱の時にはどこでも起こる略奪行為が極めて少なく、秩序が保たれ、冷静にじっと耐える被災者を国民がこぞって助けようとする姿勢がまだまだ日本には残っています。この日本人固有の精神を、国民一人ひとりが少しでも感じていただけると明るい社会により近付けると考えました。

しかし、一口に「市民一人ひとりが公民としての自覚を持つ」と言ってもそれを実現することは簡単なことではありません。大震災のような究極的な状況に追い込まれればそれも可能かもしれませんが、現実には不可能です。そこで、我々は「あの人いいね！フォトコンテスト」という事業を開催いたしました。

普段から、地域や他人の為、もっと言うと「公」の為に活動している人を被写体としたフォトコンテストを行い、応募者の方にまず気付いていただく。そして、その応募作品を広く一般の市民の方に投票していただくことにより、その活動している方々を知っていただくという内容の事業を展開いたしました。フォトコンテストの応募総数は４００件余り、投票総数は１０００件を超えました。戦場カメラマンの渡邊陽一氏の講演会と同時開催した表彰式には約６００名の方々にご参加いただきました。呉市の人口約２５万人を考えますと微々たる数字かもしれませんが、市民意識の変革という意味では大きな一歩を踏み出した事業だと考えます。

「地域に密着した広報活動の実践」

２０１２年度　社団法人　呉青年会議所は創立６０周年の年でした。諸先輩によって築かれた歴史と伝統ある呉青年会議所ですが、残念ながら現在、呉市民の方にその存在はほとんど知られていないのが現状です。近年、ホームページやｆａｃｅｂｏｏｋ等を活用し呉青年会議所をＰＲしてまいりました。しかし、２０１２年度は積極的に市民の前に出て活動しようと取り組んで参りました。みなと祭り、よしゃこい祭り、よさこい祭り九州・中国大会ＩＮ呉、呉市食の祭典に積極的に参加いたしました。なかでも、11 月に行われた食の祭典で行った事業「日本一の太巻き！！～よみがえれ！日本一の戦艦大和の主砲よ」においては２０００名を超える方にご参加いただき、マスコミ各社に取り上げていただき

食の祭典に花を添えることができました。中には全国放送された局もあり、一部世界でも放送され、あわせて呉青年会議所のＰＲも行うことができました。多大な費用をかけばかばかしいと思われる事業でも、若者にしかできない発想で全力投球すれば、しっかりとこのまちの活性化につながると確信した事業でした。

「高い志を持ったメンバーの育成」

大東亜戦争の敗戦によって日本各地が荒廃する中、諸先輩によって設立された青年会議所はその活動により戦後復興に多大な貢献をされ、その後も時代背景・活動内容は違えども、この国、このまちの発展に貢献され、社会から必要とされる団体であったことはまぎれもない事実です。

しかし、昨今では長引く景気低迷、少子化という課題への対応を迫られたり、社会のニーズも多様化したことから、複数の公益団体が設立された結果、青年会議所しかなかった時代から、青年会議所もある時代へと変化を余儀なくされ、我々の存在意義が改めて問われています。

２０１２年　社団法人　呉青年会議所は皆様のおかげをもちまして創立６０年を迎えることができました。６０年といえば人間でいえば還暦にあたります。暦が一巡し新たな暦の始まりであるこの機会を新たなスタートと位置付け、これからも社会から必要とされる団体であり続けられる様、メンバーの意識改革を行って参りました。青年会議所の目的、使命、役割を再確認するセミナーや、呉市の現状と取り組む課題、そしてこれから青年会議所が向かっていく方向性を学ぶための数回にわたる勉強会を開催しました。

まだまだ十分ではありませんが、めまぐるしく変わっていく社会・経済状況に若者らしく対応していかなければならないとメンバーが自覚したと考えます。

「最後に」

２０１２年は創立６０周年の節目の年にあたり、呉市をはじめとする関係諸団体の皆様には多大なるご協力をいただきましたこと、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

また、役不足の私を１年間支えてくださいました理事・役員、特別会員そしてメンバーの皆様、大変ありがとうございました。

副理事長報告

副理事長　　田尻　康人

２０１２年度呉青年会議所は、宮下理事長の下、『滅私奉公』をスローガンに４つの基本方針で活動して参りました。また、６０年という節目の年でもあり、これからの団体の未来を見据え、何を残し、どのような変化をしていくべきかを考え、取り組み、その取り組みがただのチャレンジに終わるのではなく、今後の青年会議所のスタンダードになるようにより丁寧な運営にも心がけて参りました。さらには、これまで時間をかけて取り組んできた、公益法人制度改革も最終局面を迎える中で、これまで以上に呉市民から必要とされる団体であり続けるためにより精度の高い、確かな手ごたえのある事業を展開していくことが我々の使命だと確信しました。

担当させていただいた「まちづくり室」におきましては、「呉市の文化を理解し市民一人ひとりが誇りに思う社会の実現に向かって」をテーマ壮大な労力と熱意を持って勇猛果敢に取り組んでまいりました。事業を一過性のもので終わらせるのではなく、事業を終えた後もその息吹が呉のまちのいたるところで聞こえ届くような事業の実践に努め、事業開催に至るまでに関わっていただきました、関係各所また多くの地域協力者にご尽力いただきました。例年に類を見ないほどの規模で開催させていただきました事業でしたが、様々な場面で様々な方との、数多くの出会いなくしては当室事業の完遂はなかったと思います。そして、柴崎室長の下、吉田委員長をはじめとする委員会スタッフ・メンバーが一丸となって取り組んでくれたことはもちろんのことですが、何よりも呉青年会議所メンバー総力戦と呼ぶにふさわしい事業を行わせていただくことができましたのも、全てのメンバーの皆様の深いご理解とご協力のおかげです。深く感謝申し上げます。

最後に、宮下理事長の下、副理事長という大役を仰せつかってからの一年間で本当に多くの気づき、経験、更には仲間と呼べる友に出会うことが出来ました。私の人生に大きな財産として得ることが出来ました。しかしこれを自分一人だけの物にしていくのではなく、残り少ない JC 生活の中で少しでも多くの後輩たちに継承していければと思っております。

一年間本当にありがとうございました。

副理事長報告

副理事長　　相原　新太郎

本年度基本方針の１つに「市民一人ひとりが公民としての自覚を持つ市民意識改革」が謳われ、この基本方針を前提に１年間の事業展開を託されました。

最初に取りかかったのは「公民」とはなんぞや？どうすれば市民一人ひとりに自覚を持ってもらえるか？という問題でした。

とりあえず公民協働室室長の山本純也君、クレビジョン委員会委員長の藤井聖君と手分けして公民に関する調査が始まりました。いろいろな調査を試みましたが、最終的には基本に忠実な調査を敢行し、中学校教育で使用される公民教科書を熟読することに至りました。それによれば、「社会の中で生活する人間には常に二つの側面がある。自分の権利や利益を追求する私的な側面と、国や社会全体の利益のために行動する公的な側面がある。この公的な側面を中心に人間を見たときに、これを公民と呼ぶ」ということらしい。

議論を整理してみた。

人は自分以外の誰か（他人）や社会に活かされている面がある以上、他人との関わりを排除して純粋に私的に生きることは不可能です。逆に、仕事や家庭をほったらかしにして国や社会全体の利益のために行動ばかりしていたら、自分や周りの大事な人を不幸にしてしまいます。結局のところ、人は私的な側面も公的な側面もともに重要であり、もっとも大事なのはそのバランスであるとの結論に達した。

それでは、多くの人が公私のバランス良く日々を過ごしているだろうか。権利意識の高まりと相まって義務を放棄し責任意識を自覚しない行動例が散見されることに気づかされた。

公民としての自覚とは、公私のバランスの良い人の創造であり、ちょっとしたことに気
づかされれば人は公私のバランスを修整するはずである。

こうして本年度は呉地域で生活する人々に向けて公私のバランスを保つことへの気づきを提供しようと決めました。

果たしてこれが達成できたか否かは、引き続き室長及び委員長の報告を読んでご確認下さい。

副理事長報告

副理事長　　奥原　誠次郎

会員の年齢制限が設けられている当会において、最終年度に役職を担わせて頂くことは大変意義深い。自らのこれまでの活動と思想を一旦整理反省し、客観的な視点から地域と当会の関係性の中のあるべき運動団体としての姿を描ききり、その実現を目指すための行動をぶれず一心不乱に歩む事が自然に出来た。　結果、改めて、地域社会の豊かさ追求にむけたリーダー育成機関として、この青年会議所が背負う責務は大変重要であり、唯一無二の稀有な存在であると、躊躇無く言い切れることを確認するに至った。

必然、例年以上に多くの地域の新しい仲間を迷い無く当該機関に引き込むべく、地域中の未来のリーダーへと辿り着き、15 名という多くの若く活力漲る仲間と出会う事ができた。彼等とは呉市長との市制勉強会を始め、広島市街地での呉市魅力発信などの実践的な事業等を通じ、様々な知見や公共心、そしてリーダーシップを研き重ねていった。

また、未だ出会えていぬ次代のリーダーと成り得る地域の方々を対象にした当会 60 周年記念例会において、パネル討論会「呉の未来は、呉の青年が創る！」を展開、依存心に満ちた世の中からの脱却をテーマに、600 名を超える多くの聴衆者からの手応えを得る事ができた。同時に、サスティナブルな社会事業展開の先鞭をつけていくべく、我々青年会議所のこれからのポジショニングについて、ＳＢ・ＣＢの手法と照らし合せながら、新しい次代に呼応した運動のあり方を議論し、描いた。そこあったのは、東洋古来の英知である循環的発想に基づく「共生」というポイント。このポイントに軸足を置くことで、余計な無駄が少なくなり、必要な要素に資源を投下が可能になると言うわけだ。未来への足がかりが、この辺りに潜んでいる。是非とも当会の新しいリーダーに、顕在化して頂くべく、果敢に挑戦していただきたいと願うばかりだ。

思い残す事も、遣り残した事も、伝え忘れた事も、本当に沢山あるが、まずもってこの一年の役回りを担わせていただいたお陰で、私自身も地域の未来への足がかりを得たように感じる。衷心より深謝の念を表し、報告に替えさせていただく。有り難う。

副理事長報告

副理事長　　高橋　征司

創立６０周年という節目を迎えた本年度、理事長の強いリーダーシップで、これからの呉青年会議所が目指すべき目標を内外に向けて提示できたことは、今後の我々の運動の展開に一石を投じることができたのではないかと考えます。
次年度は公益社団法人格の取得も予定しており、会計基準など、諸々の変化の年となると思いますが、本年度の示した方向へと舵をきっていってくれることを期待しております。

また、担当をさせていただいた、ＬＯＭ改革室では、中谷室長を中心に、飯垣委員長、長谷川委員長、スタッフおよび委員会メンバーさんが、非常に能動的に活動してくださり、大きな事業を成功裏にすすめることが出来ました。

飯垣委員会では、我々が地域に向けた運動を展開するにあたっての市民認知度の向上というミッションを、地域行事への継続的な参加と、大きなイベントによる発信という２つの方法で実施していただきました。特に後者においては「戦艦大和の主砲と同じ長さの日本一の太巻き」を作るイベントを開催し、全国放送を含むＴＶ各社での放送、新聞各社の記事、また、ｙａｈｏｏ！ＪＡＰＡＮのトップページ記事として取り扱われるなど、大きな成果を上げた事業となりました。

長谷川委員会では、メンバーが所属意識を確認しベクトルをあわせる例会の場を大切にしようということで、例会のメンバー参加率向上を図る運営を、一年を通じて実施していただきました。委員長の個性から想像するに、少し苦手な分野であったかもしれませんが、四苦八苦しながらも継続的に運営をしていただき、近年実績を上回る例会出席率を達成していただきました。また、創立６０周年記念式典は、現在の呉青年会議所の運営にあったスタイルで、厳粛かつ盛大に実施していただきました。

最後に、ＪＣ活動の大きな産物として、我々メンバーの修練・成長というものがありますが、当室のスタッフの皆さんが来年度も、理事やスタッフとして活躍していく予定だと伺っており、その点においても、有意義な一年であったのではないかと思います。
本年度、呉ＪＣの活動に関わっていただいた皆様に感謝し、次年度以降も呉ＪＣの一員として事業・活動などに邁進してまいります。

今後ともよろしくお願いします。

（社）呉青年会議所　２０１２年度　事業報告

専務理事報告

専務理事　　有本雄一

２０１２年度社団法人呉青年会議所は滅私奉公をスローガンに掲げ１年間運動を展開して参りました。滅私奉公という志高いスローガンの元、身の引きしまる思いで１年間専務理事を務めさせていただきました。

本年度、呉青年会議所は創立６０周年という節目の年に、もう一度呉青年会議所の存在意義を見つめ直し、時代が変わりゆくなか、地域社会から真に必要とされる団体となるため、変えてはいけないことと、変えなければならないことを見極めつつ今後の方向性を示していきました。

そのようななか公益社団法人各取得申請を７月に行いました。定款変更、会計制度の変更等に当初の予想より時間が掛かってしまい、残念ながら年内の公益社団法人各取得には至りませんでしたが、次年度春には取得の目途がつきました。担当いただいた石井会計制度担当理事、矢原補佐には大変感謝しています。

ＬＯＭの運営面につきましては会議の運営、内部調整、外部との調整等様々な調整を取らなくてはなりませんが、専務理事として至らぬ点や厳しさに欠けた判断をすることが多々あったと思います。しかし理事長、副理事長をはじめとするメンバーの皆様にカバーしていただき、感謝しています。

専務理事を務めさせていただき、１年間気が抜けない大変な役職でした。しかし専務理事をしなければ気が付かなかったことや、様々な人との出会いをさせていただき、大変貴重な経験を多くさせていただきました。そういった経験をすることが出来る役職を与えていただいたＬＯＭの皆様、いつも身近で支えていただいた濱本事務局長、セクレタリー、佐々木事務局員に感謝を申し上げ専務理事報告とさせていただきます。

事務局長報告

事務局長　　濱本　陽平

２０１２年秋に２０１３年度の事務局長という役職を頂き、そこから事務局という組織が決まり、各会議の設営や事務局の管理・運営と予算・決算等に関しての事務的な職務を担当させていただきました。また、２０１３年度までの公益社団法人格制度の移行に伴う重要な年に、一年間の事務局長としての活動をさせていただきました。本年は事務局長として活動する中で様々な学びと気づきを経験させていただけたことと、専務理事の補佐役として、今年の方針を理解し、各委員会との連携を図り、事業や活動がスムーズに行われるよう自分自身活動してまいりました。初めて運営に関わり、分からないことだらけではありあしたが、この一年で組織運営の大切さ、責任の重さを実感しました。全ての事業や活動には、多くの人達の協力があって成り立っています。この思いをメンバー一人ひとりが今以上に持つことで素晴らしい活動ができ、地域に根づくことができるのではないかと思います。

事務局グループの運営としましては、それぞれの意見を尊重できる雰囲気づくりと明確な役割分担による運営を目指しましたが、自分自身、事務局長としての職務を全うすることに精一杯で事務局長としてのリーダーシップが足らないと痛感したこともありました。しかしながら、専務理事、セクレタリーの皆様の支えがあって一年間を過ごさせていただいたことは非常に感謝しています。一年間を通して忙しくはありましたがたくさんの方々の協力に支えられた一年となりました。貴重な経験をさせていただき感謝しています。一年間ありがとうございました。

会計制度変更担当理事報告

会計制度変更担当理事
特 別 理 事　石井　靖彦
特別理事補佐　矢原　孝一郎

２０１３年１１月３０日をもって公益社団法人か、一般社団法人になるかの選択期限が迫る中、まず、県の担当者の方との話の中で、公益社団法人格取得で申請する旨の意思表示を行いました。しかしながら、公益法人格取得自体に、内外から不安なお声掛けを頂いたのも事実でございます。そこで、４月に現役メンバーに向けて、勉強会を実施し、これまでの内容を復習し、会計制度の変更点、メリット・デメリット、会員変動による今後のシュミレーションをプレゼン致しました。そして、公益目的事業を開催するにあたってのチェック項目に対応するように記載修正、会計の科目変更等手がけてまいりました。

紆余曲折を経て、手探りながらも７月に第１回目の申請を行いました。しかしながら、定款変更案も含め、予想をはるかに超える修正依頼が８月に帰ってきました。以降、９月、１１月と２度の修正を加えて現在に至っております。残念ながら、２０１２年度中には認可が下りる予定がないとの返答ですが、着実に公益社団法人格取得への階段は上っていることは実感できました。今後の課題として、メンバーの意識高揚、会員の拡大はもとより会計処理に明るい人材が必要になろうかと思います。今回は補佐としての矢原君の力が非常に大きかった１年でございました。役は１年で終わりですが、今後もサポートしてまいる所存です。１年間、ご協力ありがとうございました。

室長報告

まちづくり室
室長　　柴崎　学

皆様ご存知の通り私たちの住む呉市は、平成１７年に１市８町の合併があり人口約25 万人となりましたが、島嶼部を含めた地域との結びつきを強く感じたことが無いのが現実としてあります。
今年度まちづくり室では、地域の魅力を再発見し、それを呉の人に広く知ってもらうことで、呉を誇りに思い、地域を越えた郷土愛となることが、広くなった呉市の結びつきとなることだと考えました。

呉市の各地を舞台とした宝探し事業を行い、これを切っ掛けとして呉の魅力を再発見していただきました。
※詳細については、吉田委員長の報告書にてお願いします。
炎天下に 4 日間と過酷な条件でしたが、事業当日までのエリア会議からお世話になりました、各地域の支所をはじめとするボランティアの方々や広域商工会議所青年部部長の加納様をはじめとする青年部の方々には感謝致します。
約構想 1 年間の中で、呉青年会議所のメンバーにも多大なる尽力いただきました。
様々な、問題もありましたが、吉田委員長の前向きな取り組みと付いてきたスタッフと委員会メンバーそして、最後までメンバーを信じて引っ張っていただいた田尻副理事長に感謝致します。

最後に、私自身が沢山の呉市の魅力を再発見でき感動しましたが、各地域のボランティアの方々のように自分の町の魅力をイキイキと説明できる呉人になれるよう精進していきたいと思います。

以上、私からの報告とさせていただきます。

一年間ありがとうございました。

室長報告

公民協働室
室長　　山本　純也

本年度は、公民としての自覚を持つ市民意識改革を目指し、まずは自ら公民としての自覚を持ち活動をしながら、多くの市民に向けて「あの人いいね」を発信してまいりました。

市民意識レベルはさまざまであり、すべての市民に幅広く公民意識の喚起をすることにより、全体のレベルを引き上げるためにフォトコンテストという誰でも参加しようと思える手法を用いて事業展開して、応募者は勿論のこと投票者に対してもすばらしい活動をされている人を知って頂きました。

更には、著名人による講演会を銘打ってフォトコンテストの授賞式を行い、参加された多くの市民に世のため人のために活動されている人たちを紹介し、その活動の素晴らしさを伝えることにより、大なり小なり公民意識の喚起に繋がったのではないでしょうか。

しかしながら、これは公民意識改革の第一歩であり、年頭に掲げていました、みんなが協働することの必要性やメリットを理解できる環境づくり、現在の社会構造や経済環境に合った地域協働のあり方などを掘り下げていくという大きな柱には到達することができませんでしたので、今後も引き続きいろいろなところで公民活動をされている人たちとの接点をつくり、個と個が繋がり輪となるように、呉市が公民協働の発信地域となれるように、そして、みんなが安心、安全、未来ある地域づくりのために、本年度に培った自らの公民意識の更なる向上とフォトコンテストで知った多くの公民活動を、多くのひとに発信していくことで更なる公民意識の喚起に繋げていくと共に、人とのつながりをキーワードに継続的な活動をしていくことを誓いまして、室長報告とさせていただきます。

室長報告

アカデミー室
室長　　土谷　顕禎

社団法人呉青年会議所は６０周年となり、人間で言う「還暦」を迎えました。還暦のお祝いに赤い衣服を身にまとうのは、赤ん坊の魔よけになるよう、産着に赤色が使われていたためで「生まれた時に帰る」という意味でこの慣習があるといいます。

還暦を迎えた呉青年会議所も、これからのまちに必要とされる団体に生まれ変わる新たな一歩を踏み出す時が来ました。時代の変化に伴い公益法人の在り方や、様々な理由で会員減少の問題が取り沙汰されますが、呉青年会議所に集う仲間は本来そのような問題とは皆無な集団であることを室長という役割の中で感じました。

新入会員の勧誘と育成を司るアカデミー室として、ＪＣキャリア育成プログラムという新しい手法を用いて育成を行いました。インターン期間の最終過程では実際にまちづくり事業を自ら計画し実践し、能動的で実践力のあるＪＣマンを体得し、自分たちの住むまちは、自分たちで良くするという考え方を覚醒することができたと感じております。

今後、会員拡大を図るためにこれまでとは違う様々な勧誘活動と会員の育成方法を模索しなければならないかもしれません。しかし経験豊富な現役メンバーと明るい豊かな呉のまちについて議論と実践する時間を共にすれば、入会までの道のりはどんな手法であっても構わないのです。多くの人材を集め、残していく事がアカデミー室最大の役割です。人間関係や「絆」の引き継ぎを丁寧に行えば呉青年会議所が絶えることなく呉のまちに存在することになる。そう確信できた１年でした。

連綿と引き継がれ、伝統ある呉青年会議所から多くの人材がまちに輩出されることを祈念し室長報告とさせて頂きます。

室長報告

ＬＯＭ改革室
室長　　中谷　和紀

本年度、理事長の掲げるスローガン・基本方針より、「人とのつながりが持てる広報委員会」「例会運営を再度考える総務委員会」を担当させて頂きました。

広報委員会については、近年インターネットの普及により、ＨＰやＳＮＳを使用した広報活動が主流となってきたため、インターネットツールを使用した広報活動を展開していく上で、「呉青年会議所」の知名度上げる事業と致しまして、呉ＪＣの力発信委員会の事業「日本一の太巻き！～よみがえれ！日本一の戦艦大和の主砲よ～」を開催致しました。詳細は、呉ＪＣの力発信委員会の報告を見ていただきたいのですが、今までにないマスコミの報道、更には「Yahoo！」のトップページに掲載されるなど、大いに「呉青年会議所」を知っていただけたと考えております。

総務委員会につきましては、例会の出席率に焦点をあて、出席率の向上を計るような例会設営を行いました。
１１月に開催された創立 60 周年記念日例会も盛大に開催する事ができました。

総務・広報ラインとして、一年間数々の事業を行って参りましたが、メンバーの皆様のお力添えがなければ開催する事ができない事業ばかりでした。
最後に、関係した全ての方にお礼を申しまして、室長報告とさせていただきます。
一年間ありがとうございました。

（社）呉青年会議所　２０１２年度　事業報告書

『事業報告』

光り輝く魅力発掘委員会
委員長　　吉田　耕太郎

Ｋｅｅｐ ｏｎ ｓｈｉｎｉｎｇ Ｋｕｒｅ
～未来に輝き続けるまちをめざして～

皆さんのご存じのとおり呉市は、平成１７年音戸町、倉橋町、蒲刈町、安浦町、豊浜町及び豊町と合併し２５万人都市になりました。その結果、以前にも増して多くの地域資源がある魅力溢れるまちとなったその一方で、実際にそこに住んでいる多くの人たちは普段いつも目にしているため、その地域の魅力を感じることが少なくなってきていると感じます。そこで本年度は呉市の近年合併した島嶼部に着目し地域の魅力を再認識することで、地域に対する愛着、誇り、自身を今以上に高める。そして事業を通じて人と人のつながり、地域と地域のつながりをより強固にすることを目的に活動しました。

事業報告
１．事 業 名：フェーズ１「地域連携戦略」、フェーズ２「地域の魅力再発見」
　日　　時：フェーズ１　２月～１０月
　　フェーズ２　６月２日１７：３０～６月３日１２：３０
　場　　所：呉市　野呂高原ロッジ、野呂山周辺
　協力団体：呉市、各地域団体（自治会、まちづくり協議会、広域商工会青年部、
　　ＮＰＯ、その他各種団体）

事業概要（方法）：
フェーズ１について
今年度当委員会の事業（フェーズ４）に向けて協力して頂く地域の人を対象に協力者を募り、年間を通して協力者の方々と連携し事業（フェーズ４）を構築していきました。協力していただく対象を各地域における団体（自治体や商工会青年部、その他各種団体、ＮＰＯ等々）とし、それに準じてネットワークづくりを行い、各地域においてエリア会議、現地調査を重ねながら事業を構築してまいりました。
まず、はじめに各地域と連携を図っていくために、呉市企画情報課に同行し、８町の支所（市民センター）を訪問し協力要請を行いました。その後、呉市自治連合会へ出席し、事業の周知を行ったのち、各８町の自治連合会へ出席し、事業内容の周知と協力要請を行いました。支所を通して事業への協力者を募り、一方で呉広域商工会青年部との連携も図り、その他直接団体に赴き更なる事業協力者の動員を行いました。地域協力者の事業協力への承諾を得た地域からそれぞれエリア会議を開催していき、事業概要の周知、情報収集、意見交換、現地調査及び事業の構築を行いました。

フェーズ２について
ライフスタイル、自然遺産、歴史的な遺産、特有の文化など、地元に住んでいる人からするといつもそこにあって当たり前のものであり特に気にも留めないものであっても、そこに住んでない人から見ると非常に魅力に感じる宝が沢山埋もれていることに、地元の人はほとんど気がついていないのが実情である。そこで外部から見た地域の魅力を地元の人に知って頂くことで、今以上に自分たちの住んでいる地域を愛する心、誇りや自信を高められると考え、野呂山にて１泊２日のセミナーを行いました。１日目はギミック都市生活研究所所長の小原潔氏を招きセミナーを行い、２日目はフェーズ４（最終事業）の宝探しのイメージを共有し最終事業へのモチベーションを上げる効果を狙い、ＪＣが設営した宝探しに参加者として体験して頂きました。

検証方法と効果：
セミナー終了後、以下の要領でアンケートを行いました。
（１）他の各地域の魅力を感じる事はできましたか？
１．　できた　１９名　　２．　できない　１名
（２）あなたの住んでいる地域に、今よりも愛着、誇り、自身を持てましたか？
１．　持てた　１９名（△が１人）２．　持てない　１名

（３）見慣れたモノが、外部の方から見るとすごく魅力的なものに感じたり、特別なモノに見える事に気が付きましたか？

１．　気が付いた　１９名　　２．　気が付かなかった　１名

（４）今後もっと地域同士のつながりを持とうと思いましたか？

１．　思った　１９名　　２．　思わない　１名

（５）来たる『宝探し』について、本日のセミナーを踏まえて、何か建設的な意見はございますか？

・地域の面白いものにもっと気付けそうな気がします。（川尻・安浦）
・宝探しの機会を通して小さな旅を行い、その地の物産の PR をし、購入していけるとよい。（倉橋）
・改めて地元の良さを見直してみたい。（倉橋）
・ほんの小さな事、看板や壁、電柱など自分の住んでいるところで見落としているところがあると思いました。だから宝探しについて、こういうのを入れたらいいと思いました。（広）
・事業の成功だけでなく、各地域のつながりを深める決起になればよいなと思いました。（川尻）
・たくさんある呉の魅力を感じ、伝えたいです。（広）

アンケート結果から、自分たちが住んでいる地域の魅力に改めて気づく、そしてそれに対して更に誇りを高めるという事は、このアンケート結果からおおむね伝わったのではないかと考えます。また宝探し体験事業については、終了後に、参加者からヒアリングしたものとして、多くの方から「楽しかった」、「面白かった」、「野呂山の魅力を感じながら楽しく宝探しができた」などの意見を頂き、８月に行う宝探し事業のイメージがしっかり伝わったと思います。

☆フェーズ１☆

＜自治連合会の様子＞

＜センターとの打合せ＞

＜エリア会議の様子＞

＜地元の人に聞き込み調査＞

＜現地調査の様子＞

☆フェーズ２☆

＜セミナーの様子＞

＜宝探し体験事業スタート前の様子＞

＜ヒントを頼りに宝箱のありかを探る＞

＜ヒントアイテム発見＞

＜キーワードを書いた宝箱発見＞

＜通行手形発見＞

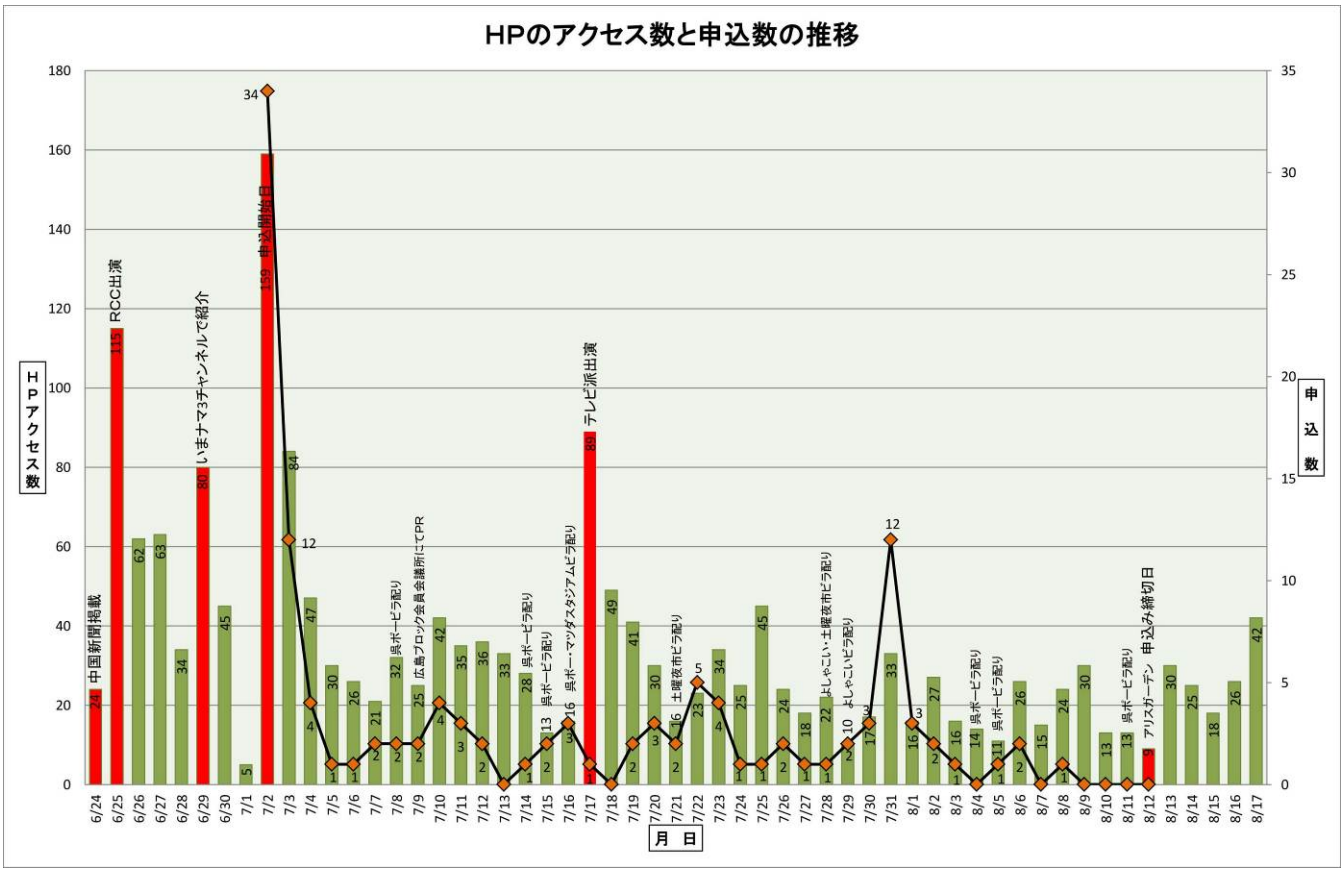
＜呉広域商工会青年部加納部長も参加＞

２．事 業 名：フェーズ３　一般参加者募集事業
日　　時：５月２９日～８月１２日
場　　所：呉市、広島市
協力団体：なし

事業概要（方法）：
　メディアの興味を惹き付け、面白いと思わせるものにするために、宝探し事業の専用ＷＥＢページを立ち上げ、その内容を充実させました。多くの人の目に触れ、その際に見た人を惹き込む強烈な要素が詰まったプロモーションＶＴＲ（以下ＰＶ）が、このオープン懸賞には必要不可欠と考えＰＶを作成しました。内容についても各地域の事業協力者に出演して頂くことで、事業に向けてモチベーションを上げる効果も狙いました。なお、事業参加者ターゲットは小中学生を子供に持つファミリー層であることから、主婦層の視聴頻度が高い朝夕のローカル情報番組で、取り扱ってもらえるよう働きかけ、その際にチラシやＶＴＲも活用しました。また、呉の未来を背負って立つ次世代の多くの子供たちに、親子で参加してもらい、呉の島嶼部のたくさんの魅力を改めて感じ、知ってもらう為に呉市内小中学校へチラシの配布を行うこととしました。
　告知内容については、あくまで現段階では予定ではありますが、具体的な内容を記載する必要があると考え、応募する人にある程度事業の内容がイメージできるような内容を記載しました。事業に関する問い合わせ方法に関しては、問合せの殺到が予想されるため、できる限り電話による問い合わせを回避するために専用アドレスを設け対応しました。

検証方法と効果：
　最終的に１６３組申込み（内、直接手渡しで申込み３９組、登録料未払い８組も含む）となった。また広報、動員の検証方法としてＨＰへのアクセス数と参加申込みの推移をグラフでデータ化しました（下図のグラフ１を参照）。
　グラフの結果より、事業申込日を除くとラジオでの広報がＨＰへの最もアクセス増加に繋がっており、それに続いてテレビが有効であったことが分かります。
ＰＶに関しては、Youtube へアップした動画の閲覧数は３６２。その他呉信用金庫全店舗、マリンボウル（２店舗）、ドコモ呉店・広店、大和ミュージアム、観光情報プラザ（レクレ内）、広島国際大学（広キャンパス）にてご協力いただき放映して頂いたことに関しては、正確な数値を出すことは困難であるが、広島国際大学広キャンパスだけでも在籍生徒数約２，０００人、その他の放映した場所を考慮してもこれ以上の人の目に触れていると考えます。

＜グラフ１＞



＜マツダ ZOOMZOOM スタジアムでのビラ配り＞

＜雑誌での掲載＞

＜よしゃこい祭りにて事業宣伝＞

＜中通り土曜夜市にてビラ配り＞

３．事 業 名：フェーズ４「光り輝く魅力発掘事業　くれ宝探し～清盛の遺言～」

日　　時：８月１８日（土）０９：００～１７：００
８月１９日（日）０９：００～１７：００
８月２５日（土）０９：００～１７：００
８月２６日（日）０９：００～１７：００
９月　２日（日）１３：３０～１５：３０

場　　所：呉市豊浜町、豊町、音戸町、倉橋町、下蒲刈町、蒲刈町、川尻町、安浦町、呉ポートピアパーク

協力団体：呉市、開催地域各市民センター職員、呉広域商工会青年部（８町支所も含む）、音戸漁協青年部、倉橋農業青年部、倉橋観光ボランティアガイド、下蒲刈まちづくり協議会、豊浜まちづくり協議会、重伝建を考える会（豊）、川尻観光協会、安浦まちづくり協議会

事業概要（方法）：

当初の事業計画では１０００組対象で、８町、４日間（８月１８、１９、２５、２６日）にて宝探しイベントのスケジュールを組んでいたが、１６３組の申込みにとどまり、うち１４６組が事業に参加、残りの１７組については不参加（キャンセル）となりました。そのため午前と午後にほぼ均等に分けて、１日２エリア開催のスケジュールに変更し行いました。

グループ分け・全行程表

参加者163組	グループ		1日目		2日目		3日目		4日目		最終日
			午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	
	A	79組	豊浜 →	豊 →	音戸 →	倉橋 →	下蒲刈 →	蒲刈 →	川尻 →	安浦	呉ポートピア
	B	84組	豊 →	豊浜 →	倉橋 →	音戸 →	蒲刈 →	下蒲刈 →	安浦 →	川尻	

ちなみに別途６組、当日申込みがあったことから最終的に１５２組となりました。

・応募期間中の参加申し込み組数・・・　１６３組
うち実際に事業に（１エリア以上）参加した参加組数・・・　１４６組（キャンセル１７組）
・上記以外の当日参加・・・　６組
・当日参加も加えた最終（１エリア以上参加した）参加組数・・・１５２組
・８月１８日（土）　豊浜・豊町　　・８月１９日（日）　音戸・倉橋町
・８月２５日（土）　下蒲刈・蒲刈町　　・８月２６日（日）　川尻町・安浦町
・９月　２日（日）　呉ポートピアパーク

検証方法と効果：

最終日の参加者９５組を対象にアンケートを実施しました。参加者アンケートの結果、自分たちが住んでいるまちでも知らないところがあり、それを楽しみながら知ることができ、また地元の人との触れ合いもあり非常に良かったという回答を沢山頂きました。その他、本事業に協力して頂いた地域協力者へ、事業についてのヒアリングも行いました。

協力者へのヒアリングについて

・来年も引き続き継続して、宝探しイベントを行って欲しい。
・当初４日間開催の予定であったが、エリアごと１日開催になったことにより、多くの協力者を輩出できる環境となり、結果的に良かったのでは。
・他の地域と協同することの重要性は十分理解できるが、各地域に言えることだが、地元をまとめるだけでも精一杯なのを理解して欲しい。

・呉市民の目が未だに旧呉市内に向いており、８町の方を向いていない。その目線をＪＣの力で変えて欲しい。
・今回のイベントを通じて、少しでも町のＰＲに繋がって嬉しい、そして少しでもリピーターが増えることを期待している。
・８町の協力者を集めて反省会をしてはどうか？
・ＪＣのマンパワーを今後も町の活性化のために生かして欲しい。

・参加者への効果について

アンケート結果から、町の魅力を再発見または新たな発見をできたという声を多く頂きました。この点からも当委員会が狙った効果が得られたのではないかと考えます。

・協力者への効果について

地域対する誇り、愛着、自信を更に深め、地域資源を活用し魅力の再認識を行うとともに、地域間のつながりをより深めることをテーマに１年間活動してきました。地域資源（歴史遺産、文化、景観）を発掘するため、地域協力者から様々な情報を得る中で、我々メンバーが結果的に外からの目線で地域資源の情報を聴取することなり、地元の人は改めて見つめ直し、地域に対する思いを深める結果となったのではないかと考えます。また、地域の人からすると普段から目にしているものばかりであるが、今回の宝探しのように行えばまだまだ地域資源を活用できるということを実際に目の当たりにしたことで、魅力を再認識するきっかけになったと思います。

また、今回の宝探しイベントがきっかけで、はじめて地域内の他団体と会議を行った地域も存在しました。これらの地域にとっては、他団体と連携するきっかけ作りになり地域内でのつながりを深める効果があったと感じます。

最後に、皆様のお陰を持ちまして、宝探しイベント「清盛の遺言」が、９月２日をもって、全日程無事終了致しましたことを、ご報告させて頂きますとともに、ご参加いた皆様に厚く御礼申し上げます。事業を通して、呉市にはまだまだ知られざる魅力が沢山あることに気づかされるとともに、各地域で多くのボランティアの方々が、まちを盛り上げるために日々様々な行事に取り組んでおられることを、肌で実感することができました。今回の事業で築いた各地域との深いきずなを大切にし、今後も呉市のために協働していければ幸いでございます。

宝探し事業「清盛の遺言」に関わって頂いたすべての方へ感謝を申し上げます。
ありがとうございました。

☆豊浜エリア（１日目）☆

＜受付の様子＞

＜豊浜エリアの問題＞

＜豊浜エリアマップ＞

☆豊エリア（１日目）☆

＜地元の協力者と一緒に準備＞

＜受付の様子＞

＜宝探しの様子＞

＜宝箱発見！＞

＜豊エリア問題＞

＜豊エリアマップ＞

☆音戸エリア（２日目）☆

＜受付の様子＞

＜音戸エリアコンプリート！＞

＜音戸エリア問題＞

＜音戸エリアマップ＞

☆倉橋エリア（２日目）☆

＜受付の様子＞

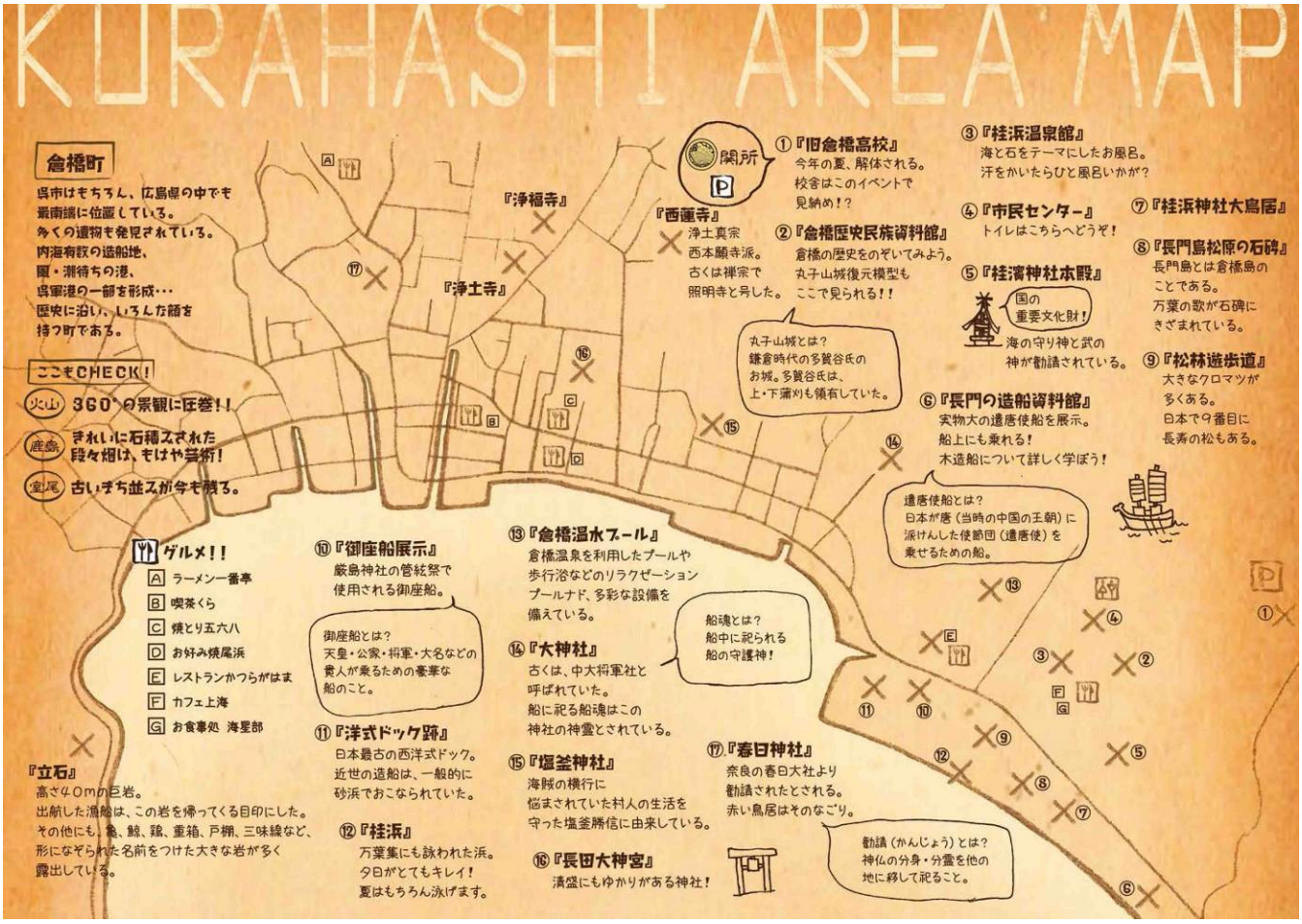
＜通行手形ゲット！＞

＜宝箱の中はこんな感じ＞

＜地元の協力者の方と記念撮影＞

＜倉橋エリア問題＞

＜倉橋エリアマップ＞



☆下蒲刈エリア（３日目）☆

＜早朝の準備＞

＜続々と参加者がやってきます＞

＜下蒲刈（三ノ瀬）は参加者でいっぱい＞

＜キーワード発見！＞

＜宝箱見つけたけどなかなか開かない？＞

＜下蒲刈エリア問題＞

＜下蒲刈エリアマップ＞

☆蒲刈エリア（３日目）☆

＜受付は大盛況＞

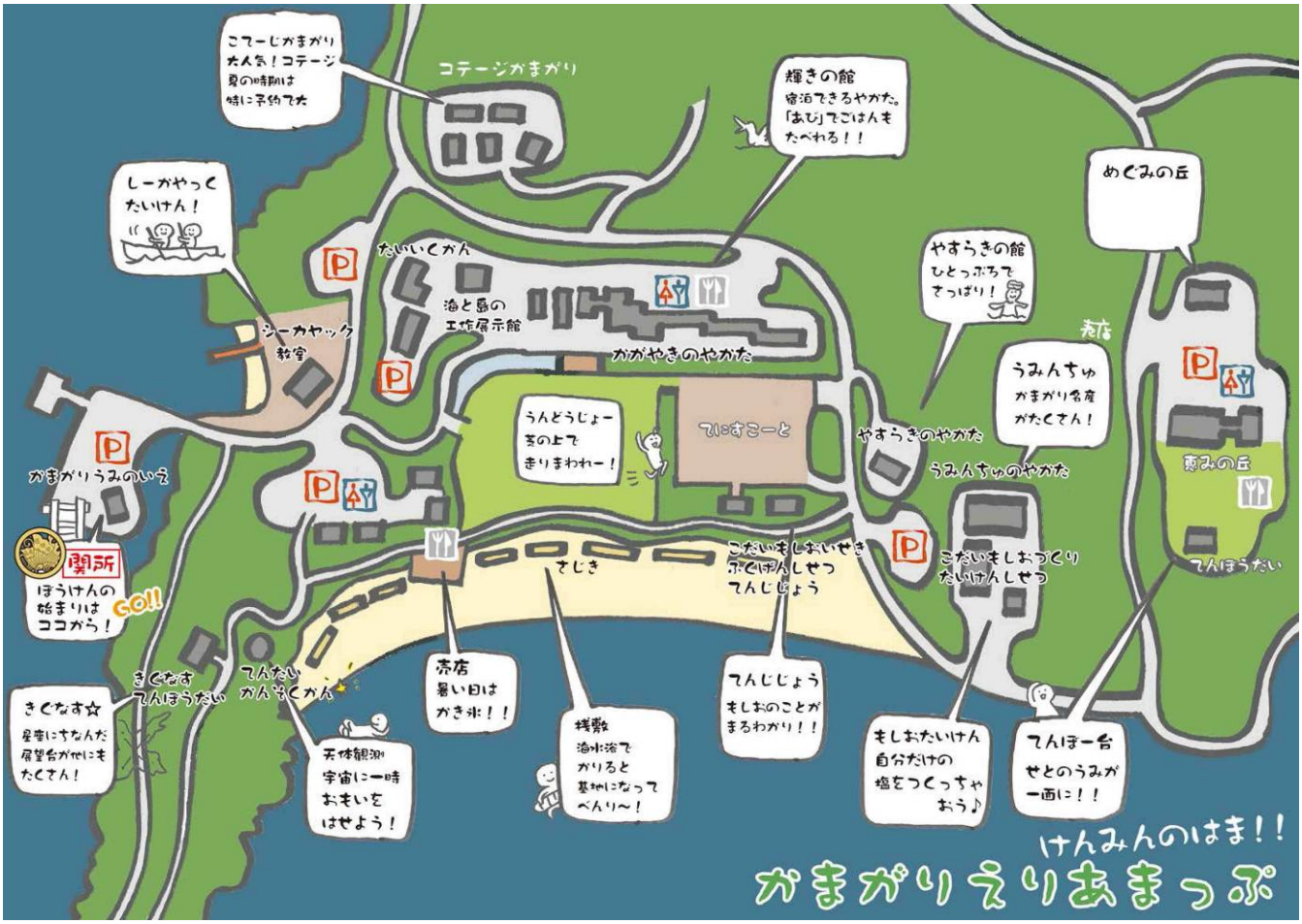
＜キーワード発見＞

＜なかなか宝箱が見つかりません＞

＜コンプリートの証に皮の地図へスタンプ＞

＜蒲刈エリア問題＞

＜蒲刈エリアマップ＞



☆安浦エリア（４日目）☆

＜地元協力者と入念な打合わせ＞

＜受付の様子＞

＜安浦エリアはかなり体力勝負でした＞

＜キーワード発見＞

＜清盛が奪われた宝は金の扇だった！？＞

＜安浦エリア問題＞

＜安浦エリアマップ＞

☆川尻エリア（４日目）☆

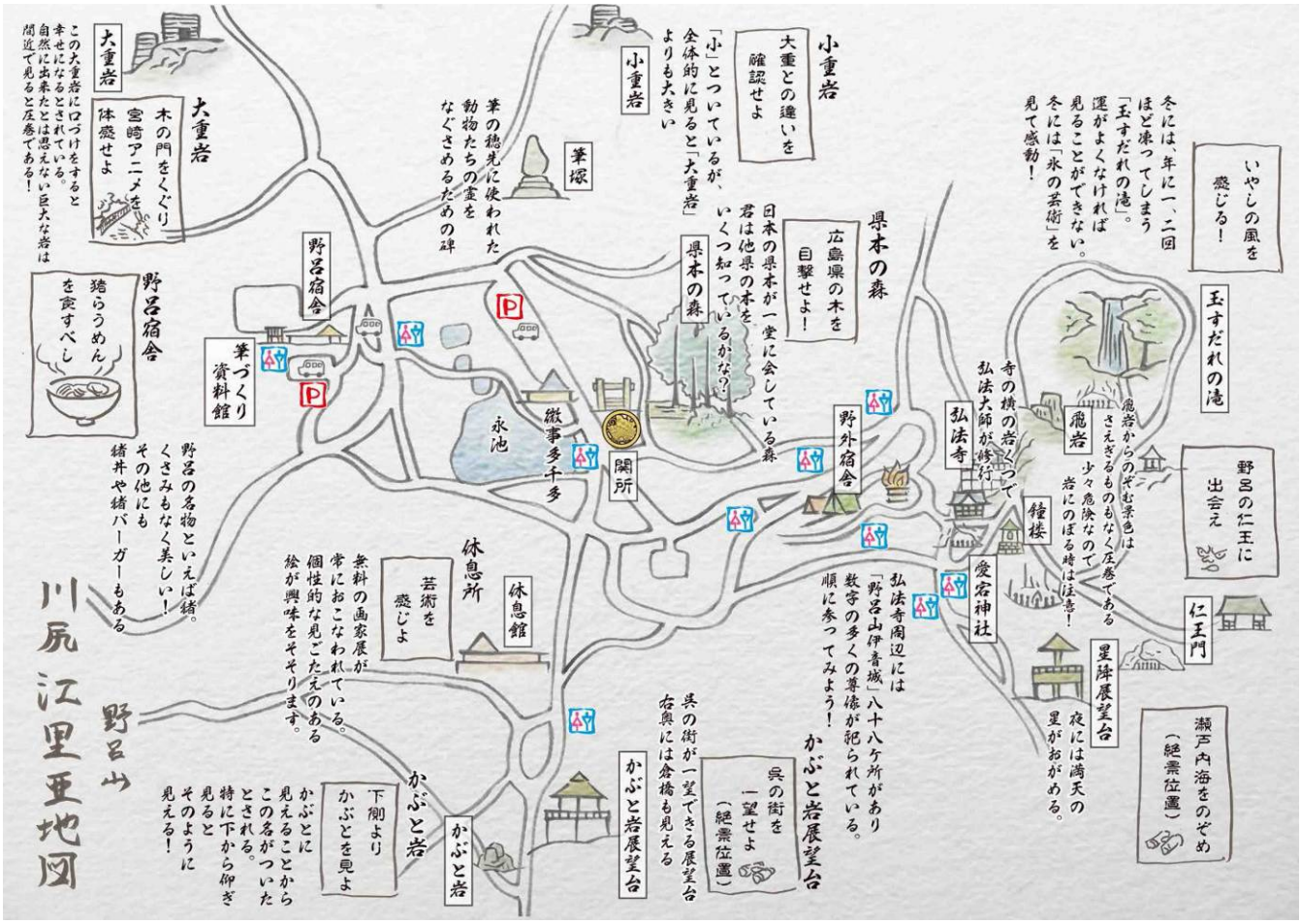
＜受付は大盛況＞

＜弘法寺にもご協力いただきました＞

＜弘法寺の中で通行手形発見！＞

＜川尻エリア問題＞

＜川尻エリアマップ＞



☆大抽選会（最終日）☆

＜宮下理事長挨拶＞

＜呉広域商工会青年部　加納部長挨拶＞

＜抽選用巨大パチンコ台登場！＞

＜１等賞金はなんと！現金１００万円＞

＜抽選開始！＞

＜倉橋ボランティアガイドの会　柳井様に
プレゼンターとしてご協力いただきました＞

＜賞金１００万円を手にした参加者の方＞

（社）呉青年会議所　２０１２年度　事業報告書

『事業報告』

クレビジョン委員会
委員長　　藤井　聖

〔スローガン〕公民の公民による公民のための「聖示」

公民とは、世のため、人のために生きる人間である。

「公民意識改革」、市民一人ひとりが公民意識ある呉にせよ。こんなお題を頂戴した。公民意識改革を唱えるにあたり幾分の戸惑いと不安を感じることはあったが、自信はあった。

私はゴルフが好きだ。ゴルフとは、プレーヤー自らが審判を兼ねるため、自分に厳しくなければならない、紳士のスポーツである。

そんなゴルフも、我が国の歴史の波に翻弄されることがあった。敗戦を迎えた１９４５年、ＧＨＱの占領軍高官などをのぞいて、人々は日々生きる事に必死でゴルフをするゆとりなど全くもってなかった。その後、占領が終わり、我が国が国際社会に復帰できるようになると、高度経済成長により、ゴルフをするゆとりも生まれ、ゴルフ人口も飛躍的に増えていく。しかし、物質的に満たされるようになると、精神的におかしくなるのが世の常である。紳士のスポーツであるゴルフも、そのジェントルマンシップを失いかける危機的状況を迎えた。ゴルフ会員権は高額で取引される投資の対象となり、プレーに関心のない人々が多く生まれた。あちこちでゴルフ場が乱開発され、我が国の環境資源を顧みることのない人々が多く生まれた。会社の利益を上げるために取引先との接待ゴルフが頻繁に行われ、嫌々ゴルフをする人々が生まれました。そして、誰でも彼でもゴルフ場に行き、まずはマナーやエチケットを身につけて臨むべきゴルフ場には、マナーやエチケットを何も知らないプレーヤーで満ちあふれた。このままではゴルフは紳士のスポーツを名乗れない！そんな一歩手前まで来たとき、一部の心あるゴルファーは一緒にプレーする人にマナーを教え、日々の生活の中でマナーの重要性・必要性を伝えるよう努力した。また、本来であればたくさんのお客さんが来ればそれだけ儲かるはずのゴルフ場側も、プレーをするお客さんにマナーある行動を要求した。こうしてゴルフというスポーツは、公衆道徳を失うことなく、今でも品質が保証された紳士のスポーツと言われるようになり、現在に至る。

どうしてゴルフというスポーツは、マナーを守ることができたのだろうか。それは、マナーの重要性を教え伝える、一部の心あるゴルファーの頑張りの他に、そういった素晴らしいゴルファーのプレーを見て学び、想像して「自分もそうなりたい」と、ゴルフをする誰もが考えたからである。マナーに優れた人が身近にいたり、マナーに優れた人に気づいてその行動を間近に見たり観察することで、マナーを自覚していなかった人にもマナーが

身につく。そこで、公民意識にあふれた人々の活動を間近に見たり観察したりすることによって公民意識の重要性を自覚できるよう、「真のゴルファー」を「公民」にすり替えて事業を企画した。

　さて、どのような方法で公民意識の喚起を促す事業を遂行したか、具体的にご説明させて頂きます。

事業報告

１．事 業 名：５月例会

　日　　時：平成 24 年 5 月 7 日

　場　　所：クレイトンベイホテル

　協力団体：なし

　事業概要：

　　当委員会が本年度事業を行うにあたって、公民意識の喚起がいかに重要であるかをメンバーに理解して頂く為のプレゼンテーションを行った。

　検証方法と効果：

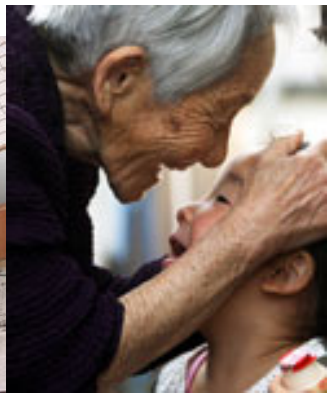
　　例会という枠の中で当委員会の年間事業展開を楽しみながら理解して頂くというテーマで挑んだ。力強く役者を演じてくれたメンバーとの結束を感じると同時に、事業を成功させる為にはスタッフ・委員会メンバーの英知を集結させることが必要不可欠であることを再認識した。

　　たかが一時間弱の定例会であるが、それを担当する委員会の思いと演出により大きな効果も得られるし、その反面、マイナスに転じる可能性も秘めた場であると思う。

２．事 業 名：公民意識改革事業～Challenge～　あの人〝いいね〟フォトコンテスト
日　　時：平成 24 年 6 月 25 日～平成 24 年 10 月 31 日
場　　所：広島県全域
協力団体：呉市・呉市教育委員会・中国新聞社・富士フイルムイメージングシステム㈱・カメラのキタムラ
事業概要：
　世の為、人の為に生きる公民を探し、見つけ、その行動を観察し、自分の胸に響くものに期待したい。その工程を可能にしたのがフォトコンテストという手法であった。お堅い「公民」という言葉をあの人〝いいね〟と名前を変えたあの人〝いいね〟フォトコンテスト。身の回りに点在する社会貢献活動、思いやり溢れる行動、地域の伝統文化を継承する人達を被写体とした写真を募集。応募する際は必ず被写体である「公民」と触れ合い、「公民」の活動をヒアリングして、その活動の紹介として写真には活動紹介コメントを記載することを応募条件とした。一般的なフォトコンテストと比べて随分とハードルの高いテーマ、応募条件であるがスペシャルプレゼンター戦場カメラマン渡部陽一の名前をお借りすると同時に入賞者へは賞金を出すことで、何とか応募意欲を嗅ぎ立てる仕掛けを設えた。そして、応募写真の入選者決定は市民が選ぶ一般投票制にすることで、より多くの市民に「公民」の存在を伝え、公民意識の喚起に期待するものであった。

検証方法と効果：
　公民を被写体としたあの人〝いいね〟フォトコンテスト。テーマ、応募条件からす

ると簡単に撮影できるものではない為、応募数には限界があると考えられていた。しかし、呉市内の全小中学校、高校、大学、各種 NPO 団体などに告知することで少しずつ応募があり、最終的には４８１枚という当初の想像を遥かに超える応募があった。４８１枚の写真には紛れもなく「公民」の姿が写し出されてあった。応募作品の一枚一枚すべてが、私達の知らないところで世の為、人の為に活動する「公民」であった。これらの「公民」を４８１名の応募者はそれぞれの現場に出向き、その活動を観察して、撮影、そしてコメントからは全応募者が公民意識の重要性に気付いたことがうかがえた。運営側としても当事業の趣旨が伝わっていたことに胸が熱くなった。４８１枚の写真は一次審査を経て、最終審査である一般投票を呉青年会議所のホームページ内で開催した。その投票には１００５投票の数からもより多くの市民が写真を見て「公民」の活動を知り、公民意識に触れる切っ掛けとなった。



３．事 業 名：９月例会

日　　時：平成 24 年 9 月 1 日

場　　所：クレイトンベイホテル

協力団体：なし

事業概要：

当委員会が本年度事業を行うにあたって、公民意識の喚起がいかに重要であるかをメンバーに理解してもらう。また、応募作品から呉 JC 賞を選考していく上でメンバーの公民意識が徐々に芽生えるような例会を実施。尚、例会開始に先立ち、例会会場内に応募作品の４００枚を掲示した。

検証方法と効果：

９月例会では呉 JC 賞の決定とメンバー内での公民意識の重要性を再確認させて頂きたかった。呉ＪＣ賞を投票制により決定したことは公平性があったと思う。そして、現在行われている一般投票の模擬実験になった。また、応募作品を会場内に掲示し公民意識ある行動をメンバーに見て頂いたことは大変意義のあることであった。今後も、より多くの市民に写真とコメントから公民意識の喚起を促す必要性について委員会内で意思疎通が図れた。この度の例会は、ステージとスクリーンだけでなく、こういった壁面を利用することや工夫することで、効果的になった。

４．事 業 名：公民意識改革事業～change～

あの人〝いいね〟フォトコンテスト授賞式＆戦場カメラマン渡部陽一講演会

日　　時：平成 24 年 12 月１日

場　　所：クレイトンベイホテル３階天の間１・２・３

協力団体：呉市・呉市教育委員会・中国新聞社・富士フイルムイメージングシステム㈱・カメラのキタムラ

事業概要：

あの人〝いいね〟フォトコンテストで集まった４８１枚の「公民」。この公民であるモデルを如何にして公民意識に無関心な市民に見て頂き、それを見た市民に公民意識を喚起させるか。それが達成されなければこの企画は４８１人の公民意識の喚起に止まってしまう。そこで考えた企画が、あの人〝いいね〟フォトコンテスト一般投票で選出された入選者を市民の前で開催する授賞式であった。授賞式に参加して頂いた市民に入選作品を紹介し、公民意識の喚起を狙った。その目的を達成する為には参加者

数が命。そこで圧倒的な動員力を持つテレビでお馴染みのタレント、戦場カメラマン渡部陽一氏を招いての授賞式とした。授賞式では日本青年会議所が主催する人間力大賞を知って以来、毎年見続けていた授賞式風景を真似、被写体である「公民」にスポットライトをあて、全力で輝かせることに注力した。

検証方法と効果：

第１部は、あの人〝いいね〟フォトコンテストで入選した作品の授賞式。戦場カメラマン渡部陽一見たさに６００名の市民が会場を埋め尽くした。舞台は整い、ここからが「公民意識改革」の本番である。受賞作品を３台のスクリーンに写し、その写真に対して授賞者が被写体である「公民」の活動を紹介する。プレゼンターである戦場カメラマン渡部陽一氏からも、その被写体である「公民」に敬意をはらう発言が連発し、その「公民」にスポットライトをあてるには充分すぎる演出であった。また、この模様が翌日の中国新聞に大きく取り上げられ、公民意識の重要性をメディアから発信できたことも大きい。写真展や当日に参加した市民から聞こえてきた、「この事業の趣旨は素晴らしい。この精神が本当の日本人の心を取り戻す。私も明日から人の為になることやってみようかな。」という声は公民意識の喚起であると信じる。

「早朝のこぼれ日」

蔵本通り沿いの公園では、早朝から清掃をしている方がいます。話を聞くと今日現在で3年8ヶ月とか、毎朝清掃しているそうです。他にも何人かいるそうです。その中にはシルバーで仕事として清掃している人もいますが、この方は無償ボランティアで奉仕されています。
見えないところで、こうしたボランティアの方々がおられるから、地域の美観が保たれているのだなぁと痛感しました。

「雨の日も」

登校日には何時も挨拶運動に参加して元気を振りまいています。

「美しいまちづくり」

安濃町安登地区の美しい町づくりをモットに、まちを元気に活性化を願って、自治会館や安登公園、そして安登駅前に花を植え、この厚い夏の日も毎日の水やり・草取りをしています。私が気が付いてから、もう3年以上になるでしょうか、疲れた顔を一度も見たことがありません。笑顔が本当に素晴らしい女性、「岡崎洋子さん」です。

「釣れてよかったね！」

中通庁土曜夜市」で懐かしい場面に出会いました。オレンジ色のお揃いベストの女性。平素はエステシャンの彼女が「中通サポーターズ」の一員として「ヨーヨー釣り」を担当していました。すてきな笑顔で呉市活性に貢献する彼女たちに敬意を込めてエールを贈ります。

「日本一の香衆（公衆）トイレの発起人」

平成15年の春、神田自治会長が、小坪公園へ公衆トイレを、呉市長に陳情され、設置してもらいその時の約束が、常に清掃、清潔をということでその後、9年を迎え、今も継続しピカピカに輝いている定年の無いボランティアを続けている人です。

「年とっても、いっぱい笑おーや～！」

写真中央の水色の服の女性です。平成15年に焼山ひばりヶ丘団地内で、60才以上の高齢者を対象に「ひき込まらない」「笑顔の中での生活を」「上の思いでいきいきライフ♥ひばり・いこいの部屋♥」をたち上げ以来9年間代表として、25名のボランティアと和気あいあいで月2回楽しい会を開かれています。

（社）呉青年会議所　２０１２年度　事業報告書

『事業報告』

未来の人間力創造委員会
委員長　　増田哲之

〔スローガン〕人と人との協力心「絆」

事業報告

１．事 業 名：(社)呉青年会議所６０周年記念フォーラム２０１２
～呉の未来は呉の青年が創る～

日　　時：２０１２年2月6日（月）１９：００～２２：１５

場　　所：クレベイトンホテル３階　講演会（天の間１・２）懇親会（天の間３）

協力団体：広島県知事　湯崎英彦氏
元ミドル級世界チャンピオン　竹原慎二氏
評論家　金美鈴氏

事業概要（方法）：

新入会員の拡大、創立６０周年記念事業として、まちづくりに市民が参画する意識変革を促す為、(社)呉青年会議所会員の結束と奮起をはかる為、以上４つの目的意識を持って、市民参加型での公開例会として、拡大対象者を含め６３４名の集客の中で、パネルディスカッション形式によるシンポジウムと、懇親・勧誘の意図をもつ懇親会の２部構成として行った。

１部の講演内容は日本や地域の現状（閉塞感が漂ってはいるが、それだけではない、頑張っている人は世代や地域を越え多数存在する事）を講師三人に多様に伝えて頂き、震災・原発事故以降、日本人の美徳である相互扶助の精神を再確認出来ている事を伝えた。しかし、危機が起きてからではなく、普段から自助、共助を意識し、公助に頼り切りなる事なく、依存心から脱却し自立を目指す事が、これからの社会に必要であるという事を訴え、それが、我々の描くべき「未来のビジョン」であり、それを創るのは我々青年世代は勿論、高齢者も、エリートも、またそうではないと思っている人も関係なく、皆が考え行うべき事であるという事を提言した。

2 部の懇親会・会員勧誘では講師３名にもご参加頂き、現役、ＯＢを交え拡大対象者と懇親会を行った。1 部の内容の質疑応答は勿論、テーブルに配置した過去の事業資料や、会員紹介のＶＴＲに併せての生演奏、講師の皆様との会話、参加したＯＢ、メンバーの気遣い、多数の要素が相交わり、とても良い雰囲気が作られ、JC の魅力を拡大対象者に伝えた。

検証方法と効果：

公演会ではアンケートの実施、懇親会では対象者への聞き取りを行った。

講演会で金先生から、閉塞感が漂う現代を「古来から引き継いだ美しい日本人の精神」で乗り越えられる事、それをこれからの少子化、高齢化の社会に活かすには、市民が自立し、行政と協同して行く事が重要であると言う事を、湯崎知事から首長としての立場だけでなく、若い青年としての生の意見や、地域から沸き起こってい

る活動の例を挙げながら、市民と行政に隔たりはない事を伝え、それを竹原さんが不器用でも自分に出来る事が始めれば良いと言う事を、多様な世代に実直に分かり易く伝え、我々が「呉の未来」描き、築かなければならない事を、現役 JC メンバーを含め来場頂いた一般市民、拡大対象者の方の胸に強く刻み、JC が担うべき役割を伝えた。

懇親会では講演会が盛況で、それをコーディネートしたのが現役会員である事から、ＪＣへの興味が高まっている拡大対象者を、メンバーやＯＢが丁寧にアテンドし、講師の方からも入会を勧める様な言葉や、気軽に質問を受け付けて頂く等、ＪＣの魅力が違和感なく伝わり、入会確定者や入会に前向きになった対象者が見受けられた。

満員御礼の会場！

宮下佳昌理事長による挨拶。呉ＪＣの理念・概要を来場者に紹介するとともに、ＪＣの意義と呉市の関わりについて述べる。

委員長挨拶。「様々な課題や問題が山積する日本において、未来を担うべき若者達が、どのように捉え、行動するべきか」という今回フォーラムの目的を説明。

司会進行の奥原誠次郎副理事長。
３人のパネリストそれぞれの知見が、問題の解決に繋がるよう、
コーディネートして行きます。時には自らが問題に鋭く切り込んで
行きます。

教育問題や少子化と高齢化等々、様々な地域の問題で日本の本来持つポテンシャルを過小評価し悲観論が先行する現状を問題点として挙げました。快活でポジティブ、歯切れの良い回答で、何度も会場から拍手が湧いた

広島県知事の湯崎英彦氏。「自助」「共助」の重要性に言及されました。
また、広島で町おこしに成功した自治体の例を挙げ、「共助」の概念が
地域振興にも大きな役割を果たすことを述べられました。

元ＷＢＡミドル級チャンピョンの竹原慎二氏。東北震災支援に積極的に活動した竹原氏が、当時の生々しい状況を解説。ボランティアに駆けつけた竹原氏は、現地のあまりの惨状に声を失いました。しかし竹原氏を勇気づけたのは、ほかならぬ被災地の人達だったそうです

アカデミー室　土谷顕禎室長より運営を代表して謝辞。3 人のゲストに謝辞を述べると共に、来場者に青年会議所の活動の必要性を PR する。

２．事 業 名：地域の魅力再発見！～溢れるまちの資源を再構築する～

日　　時：２０１２年　7月８日（日）１３：３０～１７:１０

場　　所：ビューポート呉　大ホール

協力団体：榎田竜路氏（えのきだりゅうじ）氏
経済産業省地域・産業活性化キーパーソン NPO 法人横浜アートプロジェクト理事長. 合同会社 Earth Voice Project 代表社員 北京電影学院ニューメディアアート科客員教授

事業概要（方法）：

仮入会員、現役メンバー、外部参加者と「明るい豊かなまちづくり」の原動力とな

る「地域への愛着や誇り」を喚起する、をテーマにセミナーとグループディスカッションを開催。講師の榎田氏独自の手法、「映像」と「言語」を用い、新たにまちづくりに取り組む人々を実例に挙げ、呉のまちづくりに対する考え方や、向き合い方、捉え方を参加者に感じて頂く講演となりました。映像言語の制作を行い、人材育成、地域の活性を図るという新しい手法を、プロジェクターを活用し、仮入会員はもちろんの事、参加者の皆様には、榎田氏の豪放磊落な言葉により伝えることが出来ました。

また、視点・視座を変え、講演テーマ「地域資源の魅力と誇り高める」では、をより魅力的に変換し、見るものに伝えていることの実例を挙げました。
その結果、第２部のグループディスカッションに向けて、呉のまちの魅力に対し、より深く考え、意見が抽出できる状況が作れたと考えます。

２部のグループディスカッション「テーマ：キモチをカタチに～具体的な魅力発信方法について～」では KJ 法を使用し、意見の集約から問題解決までのプロセスを、外部参加者と仮入会員で学びました。榎田講師の話を元に呉の魅力を再認識、再構築、再発信という一連の流れを各グループでディスカッションし発表しました。

検証方法と効果：

開催後、出席者に聞き取りを行った。

榎田先生のセミナーに関して参加者の評価が高く、伝えたかった「多くの資源が眠っている自分達の生活する「まち」を見つめ直し、今までと違う見方をする事で魅力の再確認や、今まで当然だと思っていたものに新しい光を当てる事で新たな価値を創出し地域の活性化を促進することが出来る」と言う事を参加者の多くが感じる事ができた。

KJ 法でどのような発信方法が有効的なのかを検証した。比較的柔軟で面白い呉のまちの発信方法が導かれ、外部参加者と仮入会員からもディスカッションも為になったという意見が多く得られた。しかし、テーブル毎に意見のバラつきが見られ、最終的には、「新しいまちの魅力を提案する」という本来とは異なったグループディスカッションの内容になるグループも見られ、会議での意見集約の手法を学び取らせる事が重要だと言う事が分かった。

比較的柔軟で面白い呉のまちの発信方法が導かれ、外部参加者と仮入会員からもディスカッションも為になったという意見が多かった。

事前に行われた市長との勉強会で学んだ、JC が行政と市民の架け橋になる事への意識。呉市の豊富な観光資源を活用する、行政の取り組みへの一助を踏まえての事業参加で仮入会員とメンバーから闊達な意見が出た。また、この日のグループディスカッションで発表した「web、冊子等各種媒体で呉の人でも知らないマニアックな情報を掲載し、魅力を伝え集客を図る」という意見が次の事業のテーマに繋がっていく。

画像

講師　榎田　竜路氏（えのきだりゅうじ）氏

ものの見方を変える・国語力を上げる・情報運用力を高めるという３つのテーマにわけて講演。

理事長挨拶

委員長趣旨説明

真剣に議論する参加者

委員会メンバーによる補足

仮入会員による地域の魅力の発信方法の発表

最も魅力ある発信方法を決める投票

奥原副理事長によるまとめ

３．事 業 名：～くれモンが紹介する“呉“～

日　　時：　２０１２年　９月２１日

場　　所：アリスガーデン　（広島市中区新天地８番）

協力団体：

事業概要（方法）：

呉の魅力発信及び､呉青年会議所の事業紹介と仮入会員の絆の醸成と修練を両立するべく、アリスガーデンに於いてイベントを行った。

イベント会場に於いてマイクを使用してのパフォーマンスを行い､自分達で取材に行き､セミナー①で得た知識を活用し会議と修正を繰り返し完成させた呉の魅力満載の冊子の PR と配布は三分間スピーチを彷彿とさせた。また委員会メンバー監督の下クリード等のテスト行うと同時に他の仮入会員達がアンケートの収集を行い､呉の魅力の発信と修練を同時に行った。また、地域へのスポーツ振興と社会貢献を理念とする呉のダンスチーム「ワークアウトスタジオ」によるパフォーマンスや、呉が誇る B 級グルメの代表格の「がんす」海軍のまちを表現する「海軍カレー」、千福や華鳩等の地酒や呉のレモンを使用したハイボールなど､酒のまちでもあることのアピールや NHK 大河ドラマ「平清盛」で盛り上がる音戸 850 年歴史をその節にのせて表現する音戸の舟唄保存会による「上下（じょうげ）の唄」等を披露し呉の産物を PR した。

その他､ゲームコーナーにおいて子供達へのフォローや光り輝く魅力発掘委員会の事業「清盛の遺言」クレビジョン委員会「あの人いいね！フォトコンテスト」等、呉青年会議所の今年度の事業も PR を行った。

検証方法と効果：

開催後、出席者への聞き取りと来場者アンケートの集計を行った
出席者の回答を要約すると、仮入会員のひたむきに頑張る姿がとても印象的だった。、仮入会員の事業に関わろうとする姿がとてもよかった、仮入会員の中で一生懸命やる人とそうでない人の温度差を感じた。等の意見を頂いた。
課題である仮入会内での個人差＝温度差が現れたがセミナーとしてのイベントの準備や制作、設営から撤去、仮入会員が協力してイベントを無事終了させ、1 日の端々に仮入会同志が助け合う姿をみて、イベント当日だけでなく、セミナー①からイベント当日の長い道のりが与える仮入会員に対する負荷は大きく、困難を全員が協力し乗り越えた事が仮入会員の絆を少しずつ育み結束感が生まれたと感じる。このイベントの一連の準備開催を通して、自分達の活動する地域への理解と愛着を深めた。
また、来場者のアンケートからは、呉の魅力が近隣都市である広島市民に上手く伝わっていない事が見て取れた。呉に対して行ってみたい所や食べてみたい物が沢山あるが、その情報詳細をどの様に受け取ればよいか分からないという状態であり呉への観光機会を損失している事も分かった。
上記の様な検証から、仮入会担当例会の仮想事業のコンセプトが生まれていった。

画像

会場のアリスガーデン

呉市の魅力全部おしえるけん
来て呉んさい
見て呉!
来て呉
[アトラクション]
ワークアウトスタジオ
ダンスパフォーマンス
[ゲームコーナー]
ミニボウリングゲーム
スーパーボウルすくい
ストライクゲ
(社)呉青年会議所

理事長挨拶

委員長趣旨説明

仮入会員ブース　呉の地元の人しか知り得ない、「DEEP な呉」の紹介）アンケートにお答え頂くと無料でラムネをプレゼント！

３分間スピーチを彷彿させる、会場ないでマイクを使用したマップの PR

会場に花を咲かせるダンスパフォーマンス

音戸の舟唄保存会による「上下の唄」の披露

室長謝辞

４．事 業 名：１０月仮入会担当例会

日　　時：２０１２年　１０月１日（月）２０：００～２０：５０

場　　所：クレイトンベイホテル３階天の間

協力団体：**なし**

事業概要（方法）：

２０１２年度仮入会員がクレイトンベイホテル３Ｆにて１０月例会（仮入会員担当例会）を開催。仮入会員がインターン期間で学んだことの集大成として、わがまちが「明るい豊かな未来」になるために、呉の域内外の誰もが呉地域の情報を運用でき、当事者意識を持って呉地域を活力あるまちにしていけるしくみ、「呉の情報 HUB サイト KURE CITY MEETING」を考えだし、プレゼンテーションを行いました。

これまでの活動と並行して事業計画を練り、シナリオ作りやプレゼンテーションＶＴＲ等の細かい部分まで作成し、幾多の仮入会会議を経て充実したものとなりました。当日は仮入会らしいフレッシュな視点と演出で今までの事業の集大成に相応しい結束感「同期の絆」を感じられる例会になりました。

その後、緊張した空気の中でのバッヂ授与式を行い、理事長からエールを頂き、それに対して、同期会を代表して、野崎君の決意表明を行い、晴れて仮入会員が正会員となりました。事業計画と事業実施、これまでの活動を通じて呉青年会議所の一員にふさわしい人材となり、新入会員も一皮むけた表情でした。

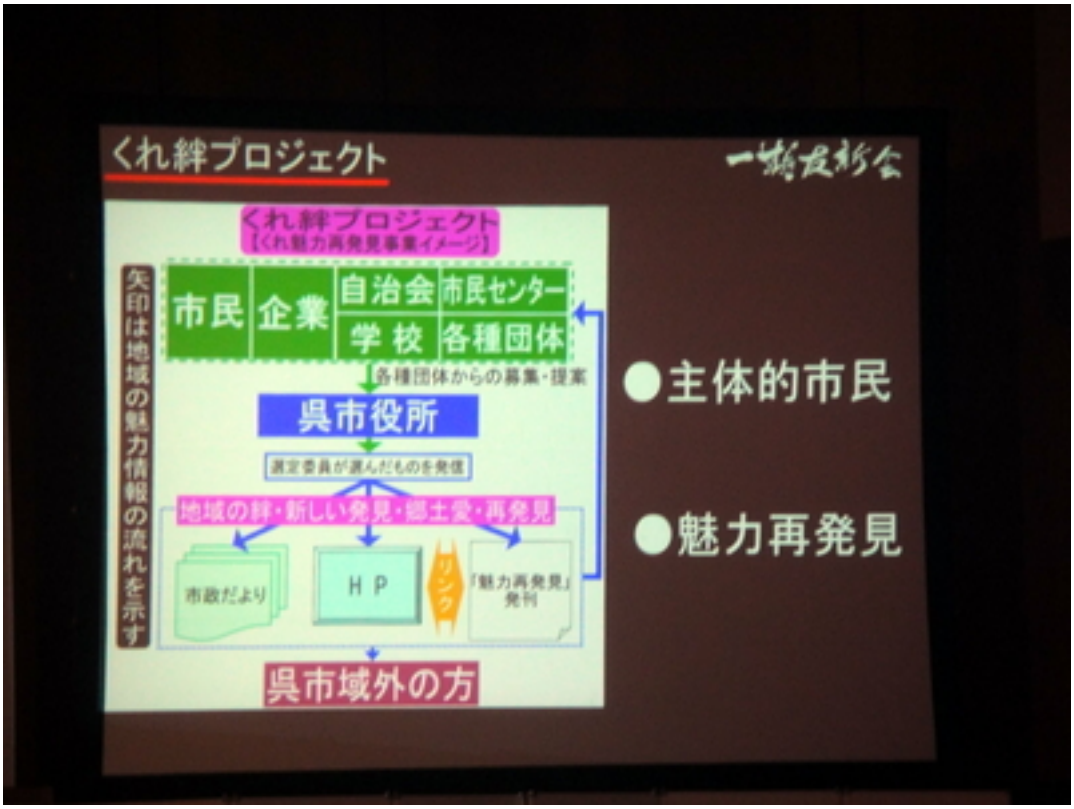
検証方法と効果：

１０月担当例会時に各委員会にてアンケート用紙を記入していただいた。
（アンケート内容１）
事業参加員の９６％（４９人中４７人）に事業の概要を伝えることができた。
（アンケート内容２）
事業参加員１００％（４９人全員）に事業の内容は呉の明るい豊かな社会にとって役に立つと思ってもらうに至った。

全体的に、「良い例会だった」という意見を多く頂き、仮入会員がこれまでの活動で学んだ事の成果が出たと考えます。特に榎田先生にお越し頂いた事業にて学んだプレゼンテーション作成・ＶＴＲ作成については活動の成果が出たと考えます。しかし、仮想の事業内容については、分かりにくい部分があったという意見もあり、その部分について充分なアドバイスが出来なかったと感じています。
また、本事業の重要な過程である担当例会前の仮入会会議などは、様式（会議の進め方等）としても、熱の入り方もとても素晴らしいものでした。
今後の彼らの活動にとても良い糧になっていると感じました。
例会直前までそれぞれの「温度差」を埋めることが出来ずにいましたが当例会が終わり結束感と充実感を得て「気持ち」の部分の「温度差」はとても少なくなったとかんじています。
今後の活動で全員が力をつけていく事を期待しております。
新入会員には本例会の「振り返り」の意味で「事業報告書」を作成してもらいました。正会員となり今までの半年間を振り返りながらの作成は様々な気づきがあり、本年度の仕上げとも言える作業になったと感じます。

副会長高野君冒頭挨拶

仮入会員が考えるプロジェクト図



熱の入ったプレゼンです！

プレゼンの資料。みんなで作った呉のマップ。

仮入会が全員登壇してお礼の挨拶。みんな引き締まった表情です。

感極まるバッジ授与式の様子

理事長からのエール

理事長からのエールを受け、新入会員を代表して決意表明

委員長挨拶

（社）呉青年会議所　２０１２年度　事業報告書

『事業報告』

呉ＪＣの力発信委員会
委員長　　飯垣　宜彦

〔スローガン〕知ってくれＪＣ

事業報告

１．事 業 名：会員手帳作成・事業計画書作成
日　　時：２０１２年1月中
場　　所：新年互例会時に配布（現役）　メール便発送（特別会員）
協力団体：なし
事業概要（方法）：
会員手帳と事業計画書を作成し、現役会員、特別会員、関係諸団体に配布した。また現役会員のみ個人情報（現役会員の手帳記載の部分）をＨＰから閲覧可能にした。（現役会員のみパスワードを入れることにより閲覧可能）

検証方法と効果：
会員手帳を作成し配布したことによって、会員間の連絡及びコミュニケーションが円滑に行われるようになり、活動及び運動が展開しやすくなった。ＨＰから閲覧可能になったことで、現役メンバーがパソコン・携帯電話（スマートフォン）等から手軽に閲覧できるようになった。
また事業計画書によって、２０１２年度（社）呉青年会議所の基本方針並びに事業計画書を関係諸団体に明確に発信することができた。

２．事 業 名：２０１２年度ホームページ作成・更新・管理
日　　時：２０１２年度年間を通じて
場　　所：
協力団体：なし
事業概要（方法）：
（社）呉青年会議所のＨＰを作成し、基本資料、事業告知、事業報告、例会等を掲載いたしました。またメンバー専用ページを作成し、理事会資料や現役メンバー向けの個人情報を掲載しパスワードを入れる事によって閲覧出来るように致しました。

検証方法と効果：
基本資料を掲載することによって、（社）呉青年会議所がどのような団体で、どのような事業を行っているか広く公に発信する事ができました。メンバー専用ページに理事会資料や現役メンバーの個人情報を掲載することで、手帳を持ち歩かなくても携帯（スマートフォン）で、手軽に閲覧できるようになりました。また事業告知、事業報告等を掲載することで、市民の方が（社）呉青年会議所が行う活動に興味をもって頂く事が出来、事業の参加率の向上に繋げることが出来ました。

３．事 業 名：８月例会
日　　時：２０１２年8月６日（月）２０：００～２０：５０
場　　所：クレイトンベイホテル　３階　天の間
協力団体：なし
事業概要（方法）：
「ＳＮＳの効果的な使用方法」と本年度当委員会が、どの様な広報活動をしようとしているのか？それに対して今まで何を行って来て、何が出来ていなくて、これからどのように広報を行うのか、寸劇及びプレゼンテーションにて説明を行った。

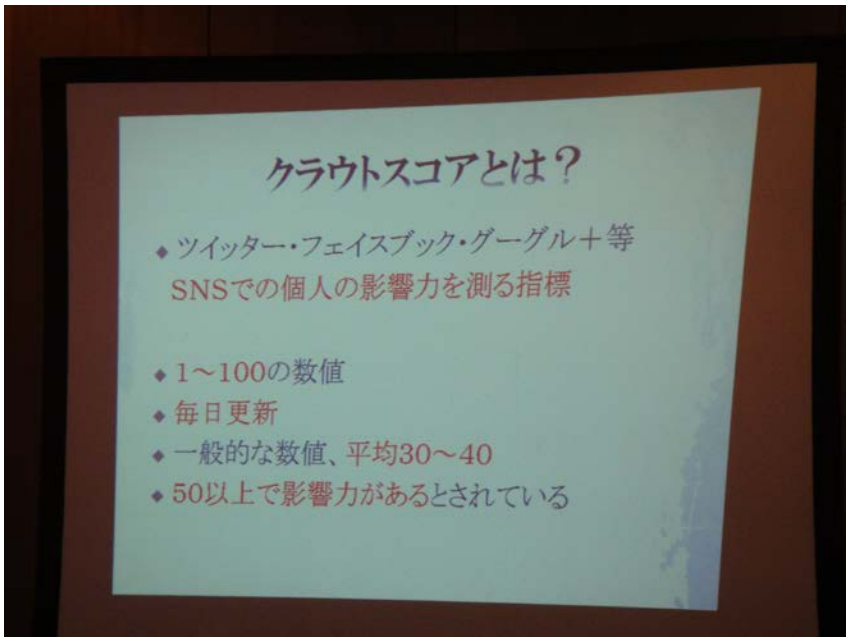
検証方法と効果：
知ってくれ JC のスローガンのもと今まで呉青年会議所と言う団体名や呉青年会議所がどの様な団体かを市民の方に知って頂く為、当委員会では地域に密着した顔の見える広報事業として２０１２年１１月４日人の多く集まる呉市内のイベント（くれ食の祭典）に法被を着て参加し、そこで日本一の太巻き作りに挑戦した。呉青年会議所のメンバーに協力してもらい、ＳＮＳを有効活用することによって、日本一の太巻き作りの事前広報ができ、事業当日には２０００人以上の人が集まり、呉青年会議所の広報が十分に出来ました。

根石委員による、ＳＮＳ（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の説明

岸本委員・橋本委員・田村委員がＳＮＳの問題点を寸劇にて行いました。

松木委員による、クラウトスコアの説明。

クラウトスコアとは？



飯垣委員長による、当該委員会の今後についての説明。

４．事 業 名：日本一の太巻き！～よみがえれ！日本一の戦艦大和の主砲よ～

日　　時：２０１２年１１月４日（日曜日）　９：００～１５：００
場　　所：なかどおりアーケード下　ポポロ前
協力団体：呉まつり協会、海上自衛隊　呉地方総監部、大和ミュージアム、呉市、ボーイスカウト
事業概要（方法）：
　１１月４日、くれ食の祭典と同日に中通アーケード下ポポロ前会場にて「日本一の太巻き！～よみがえれ！日本一の大和の主砲よ～」を開催し、そこで呉のシンボルとも言える戦艦大和の主砲の原寸大より少し小さめの直径約３０㎝×長さ２０．７ｍの日本一巨大な太巻きを呉青年会議所メンバーで作り、日本一ネットの認定記録会を開催し、日本一に挑戦した。出来あがった太巻きは認定員３名によって、長さを測定し、太さは最も細いと思われる部分２ヶ所（Ａ点、Ｂ点）、平均的な太さと思われる部分３ヶ所（Ｃ点、Ｄ点、Ｅ点）を目視にて５ヶ所選び計測し、その平均値を“太さ“の記録とした。計測した結果は、太さ２７．７８㎝×長さ２１ｍという結果で日本一と認定された。
　その後、太巻きは呉青年会議所メンバーによって切り分け無料配布し、およそ１時間で約２０００食分の太巻きを配り終えた。来場者の方に感想を聞くと、「美味しかった」「また来年もしてほしい」「凄く大きくて迫力のある太巻きでびっくりした」等の意見を頂き凄く好評でした。
　当日は、ＲＣＣ、ＨＴＶ、ＴＳＳ、ＨＯＭＥ、ＮＨＫ、読売新聞、中国新聞、朝日新聞、に取材をして頂き、各テレビ局のニュースで放送され、ＮＨＫと朝日テレビ系の全国ニュースにもなった。各新聞社にも掲載して頂けた。

検証方法と効果：
　呉青年会議所の顔の見える広報活動として、この度、れんがどおりポポロ前会場にて日本一巨大な太巻き作りに挑戦した。事業計画の参加人員は２０００人でしたが、実際は２０００人以上の集客があったと思います。太巻き完成後に太巻きを無料にて配布致しました結果、１．１トンの太巻き（２０００食分）が１時間もたたないうちに無くなり、来場者の方で配布漏れになった方が沢山いらっしゃいました。
Twitter・Facebook での拡散をメンバーに協力していただきました。その結果、動員に関してどこまで効果があったのかは、検証が非常に難しいです。しかし、事業終了時にはメンバーを含む事業参加者が多数アップしてくれた事もあって、「ＴＶを見たよ。」とか、「福井県の友達から連絡があった。」等の書き込みが多数よせられた。結果的に、事業前よりも事業後の方が反響が大きかったと感じられる。全国放送のニュースでも取り上げられた事が、非常に効果があったと考えます。
この事業告知につきましては、何か特別な事をしたわけではなく、あらゆる所にポスターを貼り、呉市内の一部の小学校、幼稚園等にチラシを配り、タウン誌、ラジオで宣伝して頂き、ＨＰ、ＳＮＳを活用した。なぜこれだけの集客がありマスコミに取り上げてもらえる事が出来たのかは恐らく、食の祭典と同日に呉で戦艦大和と同じ主砲の長さの「日本一の巨大太巻き作りに挑戦」、という短時間のイベントで成功するか否か解らないような、見ていてハラハラ、ドキドキすると言ったイベントだったからではないかと思う。それと呉と言えば戦艦大和、それに因んで戦艦大和と同じ主砲の長さの太巻きで、日本一に挑戦と言う単純で解り易く、開催場所がれんがどおりで、気軽に見に行ってみようと思う気持ちになってもらえたからだと考えます。
広報委員会として、事業をする時期が遅く出来れば５月位でこのような事業が出来ていれば、今年度行われた呉青年会議所の事業に、もっと市民の方に興味を持って頂けたの

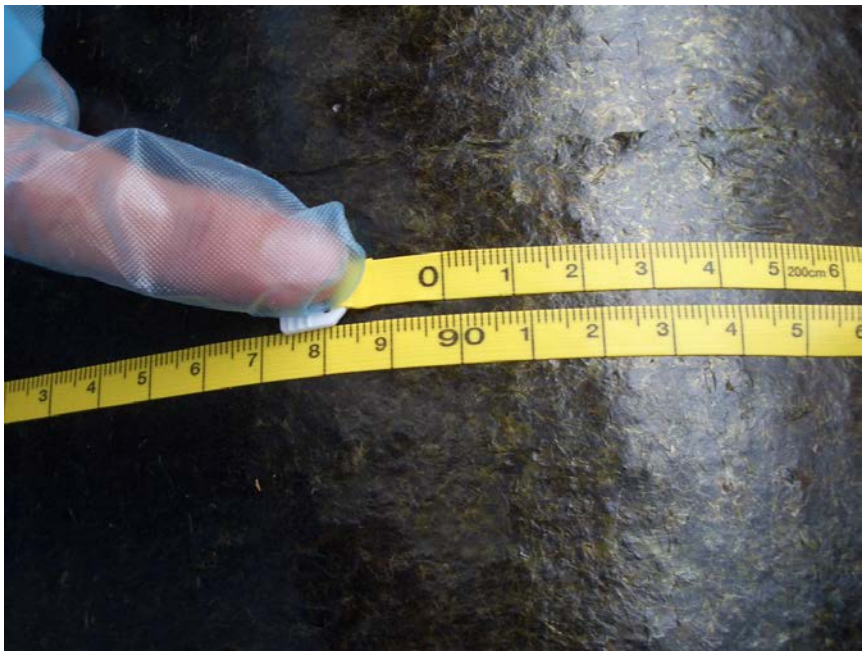
ではないかと考える。広報委員会が事業を行う時は、もっと早い段階で計画をたて、５月位に実施しロムの事業の宣伝に役立てなければいけないと感じました。
しかし、くれ食の祭典とういう人の多く集まるイベントに呉青年会議所が参加し、目立つ事業を開催することによって、そこに集まっていただいた方や事業後にＴＶ、新聞、雑誌などを見て頂いた方で、呉青年会議所の名前を知らない方、名前は知っているがどんな団体か解らない方などに、呉青年会議所を知っていただけたと考えます。結果、呉青年会議所の広報に繋がったと考えます。

「日本一の太巻き」巻き開始

「日本一の太巻き」

「日本一の太巻き」完成

「日本一の太巻き」認定記録会（計測中）



「日本一の太巻き」日本一に認定

「日本一の太巻き」切り分け中

「日本一の太巻き」切り分け配布中

５．事業名　：事業報告書作成

日　　時：２０１３年２月

場　　所：ホームページ上に掲載・メール、ＦＡＸにて案内

協力団体：なし

事業概要（方法）：

ホームページにデーター化した事業報告を作成し掲載致しました。

検証方法と効果：

２０１２年度の事業報告書を作成しＨＰに掲載することで、現役・特別会員・関係諸団体に閲覧していただく事ができ、今後の呉青年会議所への理解が深まりました。

（社）呉青年会議所　２０１２年度　事業報告書

『事業報告』

LOM の絆再興委員会
委員長　　長谷川　誠

事業報告

１．事 業 名：１月例会（新年互礼会）
　日　　時：２０１２年1月７日（土）　１９：００～１９：４０
　場　　所：クレイトンベイホテル　３Ｆ　天の間
　協力団体：呉市、呉商工会議所、海上自衛隊、音戸の舟唄保存会
　事業概要：
　　２０１２年度（社）呉青年会議所の理念と基本方針について行政や関係諸団体に直接伝える事で、今後のご理解とご協力に繋げ、より成果の高い地域貢献活動をするため。
　　下記内容で執り行いました。
　　音戸の舟唄保存会による大名行列・舟唄披露に始まり、続いて来賓紹介、特別会員紹介（紙面）を行いました。次に理事長挨拶を行い、２０１２年度（社）呉青年会議所の理念と基本方針について説明頂きました。最後に特別会員代表（会長欠席のため代表幹事が代行）、呉市長、呉商工会議所会頭、海上自衛隊呉地方総監からそれぞれ挨拶を頂き終了しました。

　　オープニングは音戸の舟唄保存会による「音戸の舟唄」。
　　今年の大河ドラマ「平清盛」で注目される呉市音戸町から、全国大会１位、２位の朗々とした歌声が会場に響きます。

宮下理事長の挨拶です。
２０１２年のテーマである「滅私奉公」への思いを、東日本大震災において世界から賞賛された日本人の姿勢や、６０年前荒廃から立ち上がった、呉ＪＣの先輩方の姿を挙げ、公への貢献・強い決意を表明されました。

特別会員を代表して、特別会員会会長　堀口勝哉　先輩の代行として、代表幹事　楠孝三郎　先輩より、ご挨拶を頂戴いたしました。

続いてご来賓の方々の挨拶。
呉市長　小村和年　様

呉商工会議所　会頭　神津善三朗　様

海上自衛隊　呉地方総監　泉三省　　様

乾杯は堀口直前理事長のご発声。
直前理事長として、本年の全例会に出席する旨の宣言に拍手が湧きました。

スクリーンのムービーと有本専務理事のアナウンスで、２０１２年度の理事会役員が紹介されました。

理　事　長　　宮下　佳昌　君
直前理事長　　堀口　悟史　君
監　　事　　増木　芳行　君
監　　事　　吉田　真也　君
副理事長　　奥原　誠次郎　君
副理事長　　相原　新太郎　君
副理事長　　高橋　征司　君
副理事長　　田尻　康人　君
専務理事　　有本　雄一　君
特別理事　　石井　靖彦　君
事務局長　　濱本　陽平　君

まちづくり室　　室長　柴崎　学　君
公民協働室　　室長　山本　純也　君
アカデミー室　　室長　土谷　顕禎　君
ＬＯＭ改革室　　室長　中谷　和紀　君

光り輝く魅力発掘委員会　　委員長　吉田　耕太郎　君
クレビジョン委員会　　委員長　藤井　聖　君
呉ＪＣの力発信委員会　　委員長　飯垣　宜彦　君
ＬＯＭの絆再興委員会　　委員長　長谷川　誠　君

広島ブロック協議会　エネルギー政策探究委員会
委員長　谷川　智明　君の紹介がありました。

各委員会の紹介。
メンバーが登壇して委員長が決意表明をされました。
光り輝く魅力発掘委員会

クレビジョン委員会

未来の人間力創造委員会

呉ＪＣの力発信委員会

ＬＯＭの絆再興委員会

最後に、事務局ライン

一本締めの音頭は、特別会員を代表して　大之木　伸一郎　先輩。

理事長、副理事長、専務理事と共に晴れやかな一本締めで、新年互礼会を締めて頂きました。

２．事 業 名：６月例会「(社) 呉青年会議所の『Ｖｉｓｉｏｎ　Ｍｉｓｓｉｏｎ＆Ｖａｌｕｅｓ』」
日　　時：２０１２年6月４日（月）　２０：１０～２１：２０
場　　所：クレイトンベイホテル　３Ｆ　天の間
協力団体：ＪＣＩ公認トレーナー呉本啓郎氏
事業概要：
　メンバーがＪＡＹＣＥＥとしての意識を再認識し、意識改革・向上を行い、より高度な地域貢献活動を実現するため。

検証方法と効果：
　ＪＣＩ公認トレーナー呉本啓郎氏による現役会員・仮入会員を対象としたセミナーを開催した。セミナー内容は日本ＪＣ公認プログラム「Ｖｉｓｉｏｎ　Ｍｉｓｓｉｏｎ＆Ｖａｌｕｅｓ」（以下「VMV」と表記。）を（社）呉青年会議所に向けカスタマイズ（２時間のセミナーを４５分（＋２０分延長）に短縮）したものとした。
≪セミナースケジュール≫
①ＪＣとは？何をしているのか？まちづくりやひとづくりは本来の目的ではなく手法でしかない。
②ＪＣの成り立ち（アシスタントトレーナー担当部分）
③ＪＣのＶｉｓｉｏｎ：恒久不変な世界平和の実現つまりは明るい豊かな社会の実現。より良い未来を創造する最初のステップはより良い明日をイメージする能力を開発すること。
④ＪＣのＭｉｓｓｉｏｎ：青年が積極的な変革（よりよい変化）を創造し開拓するために能動的に活動できる機会を提供する。
⑤ＪＣのＶａｌｕｅｓ：ＪＡＹＣＥＥはＪＣＩ　Ｃｒｅｅｄを共有しているが、その解釈はひとそれぞれ少しずつ異なる。自分自身で一文一文を解釈し、行動することが重要である。

　トレーナー　呉本　啓朗（くれもと　けい）先輩　紹介
１９７０年４月２８日生まれ
明晃化成工業株式会社　代表取締役社長
ＪＣＩ－ＣＮＴ（国家レベルトレーナー）

公益社団法人　日本青年会議所　公認　ＶＭＶヘッドトレーナー
ＪＣＩ－ＧＬＯＢＡＬ　ＮＥＴ　ＷＯＲＫＥＲ　（２０ＴＨ）
社団法人　東大阪青年会議所　シニアメンバー

　呉本トレーナー挨拶
呉青年会議所とは縁があり、日本青年会議所の会頭をされた奥原祥司先輩にいつもかわいがっていただいたという内容を話されました。そのため、最近はお断りしているＶＭＶセミナーを呉青年会議所さんに打診されたので、承諾しましたとご報告されました。

はじめに、フルーツバスケットを行い普段あまり馴染みのないメンバー６人の新しいグループを作り、席替えを行いました。

とても楽しんで、フルーツバスケットでグループを探しているＪＣメンバー

「ＪＣってどんな団体？」という題目のもと、新しいグループで話し合いました。

その後、現在は７０１ＬＯＭ（日本国内の青年会議所数）・１１７ＮＯＭ（国家青年会議所数）で構成されていますと説明されました。

次にＶＭＶセミナーの「Ｖ」「Ｍ」「Ｖ」について説明されました。

Ｖとは、「ＶＩＳＩＯＮ」のことで、ＤＲＥＡＭとの違いについてメンバーで考え、発表しました。ＤＲＥＡＭとは寝ていても見られるもので、その道のりが決まればＶＩＳＩＯＮになると教えていただきました。

Ｍとは、「ＭＩＳＳＩＯＮ」のことで、簡単にまとめると世の中をより良くする事と教えていただきました。

Ｖとは、「ＶＡＬＵＥＳ」（ＪＣＩクリード）のことで、ＪＣＩクリードの解釈は１人１人違うが、１文１文を自分で何かに当てはめ行動することが大切と教えていただきました。そして、普段から行っているＪＣＩクリード唱和は、集まるたびに意思を確認しあう為と教えていただきました。

３．事 業 名：１１月例会（創立記念日例会）
日　　時：　２０１２年１１月１７日（土）　１７：００～２０：１０
場　　所：クレイトンベイホテル　３Ｆ　天の間
協力団体：広島国際大学　教授　吉長　成恭様
呉商工会議所　副会頭
呉青年会議所　特別会員　槙岡　達真様
亀山神社　宮司　太刀掛　祐之様
事業概要
呉ＪＣの創立以来の歴史を振り返ることで当団体の理念を再認識し、今後より高度な地域貢献活動を実現するため

検証方法と効果：

６０周年記念事業「呉市の未来　ＪＣの進むべき道」を開催しました。
広島国際大学　教授　吉長　成恭様に講演をしていただき、その後、
吉長教授、　呉青年会議所　特別会員　槙岡　達真様　に、パネリストとして
参加していただき、特別会員　槙岡　達真様に、今までやってきたＪＣの話、
これからＪＣが、やらなくてはいけない、やって欲しい事を、コーディネーター
社団法人呉青年会議所　奥原副理事長、パネラー　広島国際大学教授　吉永成恭様
呉商工会議所副会頭　槙岡達具様、社団法人呉青年会議所　宮下佳昌理事長に、

パネルディスカッションにより、意見をいただきました。

下記内容で執り行いました。

①６０周年記念事業「呉市の未来　ＪＣの進むべき道」
②神事（玉串奉奠、スポンサーＪＣ表彰、兄弟ＪＣ表彰、近年理事長表彰）
③国歌斉唱、ＪＣソング斉唱、ＪＣＩクリード唱和、ＪＣ宣言朗読並びに綱領唱和
④物故会員追悼
⑤御来賓、特別会員、来訪ＪＣを紹介
⑥理事長挨拶
⑦御来賓祝辞
⑧祝電披露

式典のテーマを「祭り」とし、シンプルながらもこだわりのある設営としました。

会場については、記念事業は「天の間２」で実施し、式典はレイアウト変更を行い、「天の間１・２・３」を使用致しました。

式次第・御来賓祝辞を含む冊子（１２Ｐ）を作成し、配布致しました。

社団法人呉青年会議所　創立記念日例会　６０周年記念事業
「呉市の未来　ＪＣの進むべき道」が開催されました。

司会　相原副理事長

本日は２部構成となっています。
第１部：広島国際大学　吉永成恭教授による３０分程度の基調講演。
「呉ＪＣの進むべき道／第４のセクター」
テーマ：６０周年を迎えた社団法人呉青年会議所が今後どうあるべきか、どうあってほしいか。

広島国際大学教授　吉永成恭様

是非、この先の６０年にたいして、呉青年会議所が担うべき役割と言う事を私なりに期待しているとしたら、地域社会の発展可能なビジネスモデルとしてソーシャルビジネスの担い手、ソーシャルビジネスを支持する立場として今後の活躍を期待しています。とご講演されました。

第２部：吉永成恭教授を交え５０分程度のパネルディスカッション。

パネルディスカッション

コーディネーター

社団法人呉青年会議所　奥原副理事長

パネラー紹介
（左）広島国際大学教授　吉永成恭様
（中）呉商工会議所副会頭　槙岡達具様
（右）社団法人呉青年会議所　宮下佳昌理事長

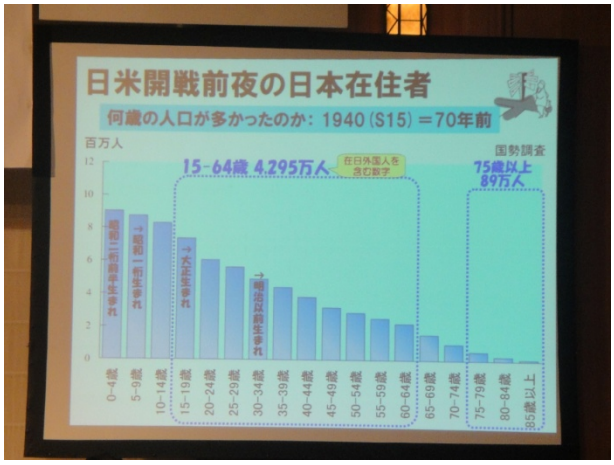
まず始めに「これまでのＪＣ」について、呉ＪＣの先輩でもあります呉商工会議所　副会頭　槙岡達具様からＪＣ現役時代の思い出話しなどを聞かせて頂きました。

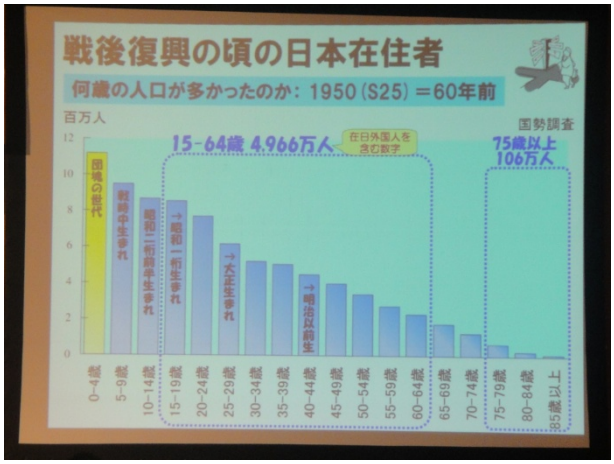
呉商工会議所副会頭　槙岡達具様

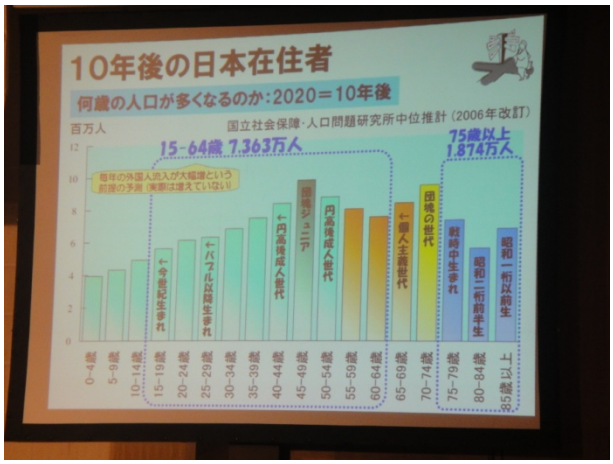
６０周年の理事長として今年度の思いを宮下理事長に聞かせて頂きました。
社団法人呉青年会議所　宮下理事長

呉市の問題点はなにか。という事で呉市が合併して自分自身が合併した町を良く知っているのかと思った時に、実際知らない事が多く呉市民の方に新しくなった呉市を広く知っていただきたいという気持ちで「呉宝探しイベント」を企画させていただきました。次に呉市民の方、一人一人が公ということを意識すれば町自体が良くなって行くのではないかと思い「あの人”いいね”フォトコンテスト」という手法をとり事業を開催させていただきました。それと呉市民の方で呉青年会議所をどれだけの人が知っているのだろうか。ということで顔の見える広報をしていきたいと思い、食の祭典の時に「日本一の太巻きづくり」という事業を行い、大々的にテレビに取上げていただき、なんとなくＪＣという存在を知っていただけたのではないかと思う。今年度は以上３点の事業をさせていただきました。

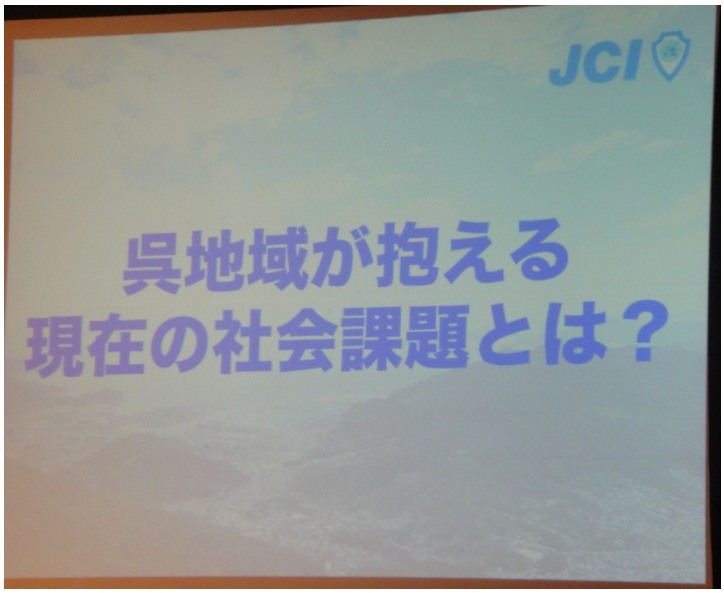
次に、その時代の人口分布と今の人口分布を比較した人口グラフの説明を奥原副理事長が行いました。



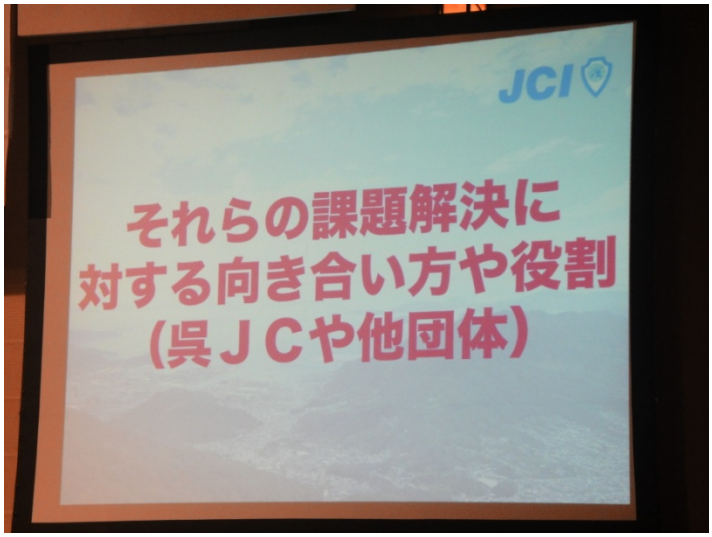




次に、「呉市が抱える現在の社会問題とは？」について意見をいただきまいた。



次に、「それらの課題解決に対する向き合い方や役割（呉ＪＣや他団体）」について意見をいただきました。



会場内の様子

最後に、「新しい時代に期待される　呉ＪＣのあるべき姿とは」について意見をいただきました。

『創立記念日例会』

１１月１７日（土）１９：００～２０：１０　クレイトンベイホテル３Ｆにて開催されました。

創立６０周年を祝い、神事「玉串奉奠」が行われました。

第６０代理事長　宮下　佳昌君　玉串奉奠

呉市長　小村　和年様　玉串奉奠

（社）高知青年会議所　理事長　森本　道義君　玉串奉奠

（社）呉青年会議所　特別会員会　会長　堀口　勝哉先輩　（左）玉串奉奠
（社）高知青年会議所　シニアクラブ代表　三谷　一美先輩　（右）玉串奉奠

（公）日本青年会議所　副会頭　富永　太郎君　玉串奉奠
（公）日本青年会議所　中国地区協議会　会長　中村　成志君　玉串奉奠
（公）日本青年会議所　中国地区　広島ブロック協議会　会長　手塚　淳三君　玉串奉奠

司会　副理事長　高橋　征司君

ＪＣＩクリード唱和　副理事長　相原　新太郎君

ＪＣ宣言朗読並びに綱領唱和　副理事長　田尻　康人君

理事長挨拶　第６０代理事長　宮下　佳昌君

呉市長　小村　和年様　祝辞

呉商工会議所　会頭　神津　善三朗様　祝辞

海上自衛隊　呉地方総監　海将　山口　透様　祝辞

（公）日本青年会議所　副会頭　富永　太郎君　祝辞

例会後、盛大に懇親会が行われました。

来賓の方々、（社）高知青年会議所の皆様、お越しいただき有難うございました。

４．事 業 名：　１２月第２例会
日　　時：２０１２年１２月１５日（土）　１８：００～１９：２５
場　　所：クレイトンベイホテル　３Ｆ　琥珀の間・天の間
協力団体：

事業概要：
　卒業生の功績を称えると共に、卒業生の公益活動を喚起することで、明るい豊かな社会を実現するため。

検証方法と効果：
　卒業式を厳粛な雰囲気の中、執り行うため、懇親会会場とは別の琥珀の間を使用いたしました。卒業式終了後、天の間に移動いたしました。
　一年間の活動の振り返りとして、本年度の事業報告をＶＴＲにまとめて放映し、その後、理事長に総括スピーチを行っていただきました。これを以って本年度の事業報告と検証の場としました。
　また、卒業生を厳粛かつ盛大に送り出すことで絆を深めることにより、公益活動の更なる拡大に寄与するものと考えます。

　以下の内容で執り行いました。
・卒業生入場
・国歌斉唱、ＪＣソング斉唱、ＪＣＩクリード唱和、ＪＣ宣言朗読並びに綱領唱和
・理事長挨拶
・卒業生紹介、感謝状授与並びに卒業生挨拶、送辞朗読、答辞朗読

・会場移動
・本年度の事業報告（ＶＴＲ）
・理事長総括スピーチ
・理事長バッチ交換
・ＪＣ旗交換
・理事長予定者挨拶
・特別会員会長挨拶

奥原副理事長による答辞朗読

理事長統括スピーチ

理事長バッチ交換

ＪＣ旗交換

特別会員会　会長　堀口勝哉先輩　挨拶

セクレタリー報告

川 上　　確
船田　成治
山崎　寛太郎
村田　祐己

「滅私奉公」をテーマに一年間、事務局、セクレタリーメンバーと共に歩んでまいりました。LOM 運営に携わるすべての事、それを下支えする事が職務であり、公益を重視した今年度の活動に四苦八苦しながらも、奮闘してまいりました。

様々な課題に立ち向かう中で、多くの人との新しい出会い、また多くの発見が出来た事と思います。年頭から比べると着実にセクレタリーメンバーのスキルが向上していく姿をみて、次年度に繋がる何かを発見できたのではないかと感じています。素晴らしいスタッフに恵まれたことを感謝しております。

最後になりますが今年を振り返ったとき、正直辛くなかったと言えば嘘になります。至らない部分がたくさんあったことも事実です。ですが、「セクレタリー」という役を受けなければ、このようなことを考え、経験する機会は無かったでしょう。そして今は、このような環境を与えてくださった宮下理事長、JC メンバーの皆様には本当に感謝しています。今後は皆様へ恩返し出来るよう活動して参ります。

皆様、本当にありがとうございました。

社団法人　呉青年会議所

会計報告書

自　　2012年 1月 1日
至　　2012年12月31日

貸借対照表

2012年12月31日現在

（単位：円）

科　目	当年度	前年度	増　減
Ⅰ　資産の部			
1　流動資産			
現金預金	3,125,743	1,059,767	2,065,976
未収金	2,024,600	1,106,600	918,000
流動資産合計	5,150,343	2,166,367	2,983,976
2　固定資産			
JC基金（定期預金）	0	6,115,050	△ 6,115,050
職員退職給付引当資産（定期預金）	1,932,000	1,878,000	54,000
周年事業等引当資産（普通預金）	1,425,035		1,425,035
固定資産合計	3,357,035	7,993,050	△ 4,636,015
資産合計	8,507,378	10,159,417	△ 1,652,039
Ⅱ　負債の部			
1　流動負債			
未払金・供託金	380,000	291,540	88,460
流動負債合計	380,000	291,540	88,460
2　固定負債			
職員退職給付引当金	1,932,000	1,878,000	54,000
固定負債合計	1,932,000	1,878,000	54,000
負債合計	2,312,000	2,169,540	142,460
Ⅲ　正味財産の部			
1　指定正味財産			
基金積立金	1,800,000	7,379,951	△ 5,579,951
指定正味財産合計	1,800,000	7,379,951	△ 5,579,951
2　一般正味財産			
一般正味財産合計	4,395,378	609,926	3,785,452
正味財産合計	6,195,378	7,989,877	△ 1,794,499
負債及び正味財産合計	8,507,378	10,159,417	△ 1,652,039

正味財産増減計算書(決算書)

（自2012年1月1日　至2012年12月31日）

（単位:円）

科　　目	当　年　度	前　年　度	増　減
Ⅰ　一般正味財産増減の部			
1　経常増減の部			
(1) 経常財産運用益			
① 受取会費			
正会員会費収入	12,600,000	12,112,500	△ 487,500
特別会員会費収入	4,200,000	4,125,000	△ 75,000
特別名誉会員会費収入		30,000	30,000
入会金収入	1,800,000	1,275,000	△ 525,000
② 受取負担金			
登録料収入	422,000		△ 422,000
③ 受取補助金等			
地方公共団体補助金	400,000	400,000	0
④ 雑収益			
受取利息	3,088	3,557	469
雑収入	322,864	449,015	126,151
経常収益計	19,747,952	18,395,072	△ 1,352,880
(2) 経常費用			
① 事業費			
給料	1,563,334		△ 1,563,334
福利厚生費	235,601		△ 235,601
旅費交通費	308,910	618,280	309,370
通信運搬費	134,098	113,995	△ 20,103
消耗品費	3,262,949	711,161	△ 2,551,788
広告費	1,476,260	1,022,010	△ 454,250
印刷費	2,225,970	1,332,400	△ 893,570
リース料	0	0	0
水道光熱費	166,225		△ 166,225
会場費	663,050	323,200	△ 339,850
賃借料	834,840	1,453,930	619,090
支払手数料	4,200	0	△ 4,200
保険料	121,120	51,000	△ 70,120
謝礼金	2,384,999	2,209,719	△ 175,280
記念品代	1,750,000		△ 1,750,000
保守料	31,500		△ 31,500
清掃費	136,809	52,500	△ 84,309
サイト運営費	273,000		△ 273,000
コンピューター関係費	105,000		△ 105,000
支払助成金	420,000	250,000	△ 170,000
外注費	135,000	660,500	525,500
特定費用準備資金繰入額	1,500,000	1,275,000	△ 225,000
小計	17,732,865	10,073,695	△ 7,659,170
② その他事業費			
旅費交通費	30,280	61,270	30,990
通信運搬費	36,603	58,206	21,603
消耗品費	960	260,633	259,673
会場費	220,500	241,500	21,000
賃借料	0	10,500	10,500
支払手数料	16,800		△ 16,800
謝礼金	10,000	55,555	45,555
清掃費	0	26,250	26,250
外注費	31,500	94,500	63,000
小計	346,643	808,414	461,771
③ 管理費			0
給料	1,563,335	3,126,669	1,563,334
福利厚生費	235,602	464,830	229,228
旅費交通費	0	0	0
賃借料	347,310	373,275	25,965
水道光熱費	165,659	358,911	193,252

消耗品費	594,965	908,357	313,392
通信運搬費	344,219	489,268	145,049
広告費	0		0
印刷費	679,820	66,150	△ 613,670
会議費	0	0	0
渉外費	180,600	206,450	25,850
清掃費	103,509		△ 103,509
会計監査費	126,000	126,000	0
租税公課	21,000	21,000	0
保守料	31,500		△ 31,500
支払手数料	289,689		△ 289,689
外注費			0
修繕費			0
諸会費	1,078,313	1,041,275	△ 37,038
図書費	229,500	243,750	14,250
雑費	142,922	487,582	344,660
小計	6,133,943	7,913,517	1,779,574
経常費用計	24,213,451	18,795,626	△ 5,417,825
当期経常増減額	△ 4,465,499	△ 400,554	4,064,945
2 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
JC基金等取崩益	7,379,951		△ 7,379,951
特別会計取崩益	1,275,000		△ 1,275,000
経常外収益計	8,654,951	0	△ 8,654,951
(2) 経常外費用			
退職積立金引当額	54,000	54,000	0
会費回収不能額	50,000	185,671	135,671
周年事業等積立金引当額	300,000		△ 300,000
経常外費用計	404,000	239,671	△ 164,329
当期経常外増減額	8,250,951	△ 239,671	△ 8,490,622
当期一般正味財産増減額	3,785,452	△ 640,225	△ 4,425,677
一般正味財産期首残高	609,926	1,250,151	640,225
一般正味財産期末残高	4,395,378	609,926	△ 3,785,452
Ⅱ 指定正味財産増減の部			
受取補助金等			0
特定費用準備資金繰入額	1,800,000		△ 1,800,000
一般正味財産への振替額	7,379,951		△ 7,379,951
当期指定正味財産増減額	△ 5,579,951	0	5,579,951
指定正味財産期首残高	7,379,951	7,379,951	0
指定正味財産期末残高	1,800,000	7,379,951	5,579,951
Ⅲ 正味財産期末残高	6,195,378	7,989,877	1,794,499

正味財産増減計算書(予算書)
(自2012年1月1日　至2012年12月31日)

(単位:円)

科　　目	当　年　度	前　年　度	増　減
Ⅰ　一般正味財産増減の部			
1　経常増減の部			
(1) 経常財産運用益			
① 受取会費			
正会員会費収入	12,712,500	12,300,000	△ 412,500
特別会員会費収入	4,215,000	4,215,000	0
特別名誉会員会費収入			0
② 受取負担金			
登録料収入	400,000		△ 400,000
JC基金取り崩し額	7,379,951		△ 7,379,951
特別会計繰戻額	1,275,000		△ 1,275,000
③ 受取補助金等			
地方公共団体補助金	470,000	400,000	△ 70,000
④ 雑収益			
受取利息	15,000	15,000	0
雑収入	400,000	450,000	50,000
経常収益計	26,867,451	17,380,000	△ 9,487,451
(2) 経常費用			
① 事業費			
給料	1,575,000		△ 1,575,000
福利厚生費	215,000		△ 215,000
旅費交通費	264,120	622,160	358,040
通信運搬費	209,435	137,345	△ 72,090
消耗品費	3,952,972	761,319	△ 3,191,653
広告費	1,294,900	1,023,560	△ 271,340
印刷費	2,198,550	1,346,514	△ 852,036
リース料			0
水道光熱費	200,567		△ 200,567
会場費	769,889	323,700	△ 446,189
賃借料	835,974	1,459,183	623,209
支払手数料	4,200		△ 4,200
保険料	120,120	51,000	△ 69,120
謝礼金	2,426,388	2,209,719	△ 216,669
記念品代	1,788,690		△ 1,788,690
保守料	48,000		△ 48,000
清掃費	138,300	52,500	△ 85,800
サイト運営費	273,000		△ 273,000
コンピューター関係費	105,000		△ 105,000
支払助成金	430,000	250,000	△ 180,000
外注費	30,000	664,000	634,000
雑費	67,598	80,500	12,902
小計	16,947,703	8,981,500	△ 7,966,203
② その他事業費			
旅費交通費	30,280	64,840	34,560
通信運搬費	38,400	59,652	21,252
消耗品費	63,960	305,703	241,743
会場費	220,500	241,500	21,000
賃借料	10,500	10,500	0
支払手数料	21,000		△ 21,000
謝礼金	10,000	55,555	45,555
清掃費		26,250	
外注費		94,500	94,500
小計	394,640	858,500	463,860
③ 管理費			
給料	1,575,000	3,150,000	1,575,000
福利厚生費	215,000	500,000	285,000
旅費交通費	10,000	10,000	0
賃借料	361,998	398,400	36,402

水道光熱費	200,000	400,000	200,000
消耗品費	800,000	1,100,000	300,000
通信運搬費	632,960	700,000	67,040
広告費	295,000		△ 295,000
印刷費	805,040	110,000	△ 695,040
会議費	0	20,000	20,000
渉外費	300,000	300,000	0
清掃費	105,000		△ 105,000
会計監査費	126,000	126,000	0
租税公課	21,000	21,000	0
保守料	48,000		△ 48,000
支払手数料	560,710		△ 560,710
外注費			0
修繕費			0
諸会費	1,048,530	1,041,600	△ 6,930
図書費	294,900	246,000	△ 48,900
雑費	100,000	613,151	513,151
小計	7,499,138	8,736,151	1,237,013
経常費用計	24,841,481	18,576,151	△ 6,265,330
当期経常増減額	2,025,970	△ 1,196,151	△ 3,222,121
2 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			0
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
退職積立金積立額	54,000	54,000	0
会費回収不能額			0
経常外費用計	54,000	54,000	0
当期経常外増減額	△ 54,000	△ 54,000	0
当期一般正味財産増減額	1,971,970	△ 1,250,151	△ 3,222,121
一般正味財産期首残高	609,926	1,250,151	640,225
一般正味財産期末残高	2,581,896	0	△ 2,581,896
Ⅱ 指定正味財産増減の部			0
受取補助金等			0
一般正味財産への振替額	7,379,951		△ 7,379,951
当期指定正味財産増減額	△ 7,379,951	0	7,379,951
指定正味財産期首残高	7,379,951	7,379,951	0
指定正味財産期末残高	0	7,379,951	7,379,951
Ⅲ 正味財産期末残高	2,581,896	7,379,951	4,798,055

財務諸表に対する注記

Ⅰ 重要な会計方針
引当金の計上基準
・職員退職給付引当金
事務職員に対する退職給付金の支給に備えるため、退職金支給規定に基づき期末要支給額を計上している。

（単位：円）

事務職員退職給付債務	1,932,000
退職給付引当金	1,932,000

Ⅱ 会計方針の変更並びにその他の注記事項
・当期より、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律並びに公営社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の連する規定に基づく会計基準に変更した。

・2012年度は公益社団法人会計基準に準拠するため、入会金収入金は従来の目的である当会の周年事業等の支出に備えるため「周年事業等引当金」に計上し、原資は「周年事業積立金」（普通預金）として管理している。

・「JC基金」については、従来は当会の資本金的性格を有し、その基金額に相当する金額を普通預金で管理していたが、公益社団法人会計基準に準拠するため「JC基金」全額を取り崩し、本会計に戻入した。

・会費の未収会費の回収不能額の計上については、3ヶ年を超えて支払請求を通知したにもかかわらず、支払意思の表示が全く確認されないものを計上処理している。

・その他の会計処理については、一般に公正妥当と認められる公的会計基準に準拠している。

Ⅲ 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高
基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

（単位：円）

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
【基本財産】				
基本財産	546,744	5,774,399	3,454,540	2,866,603
小計	546,744	5,774,399	3,454,540	2,866,603
【特定資産】				
JC基金	6,115,050		6,115,050	0
職員退職給付引当金資産	1,878,000	54,000	0	1,932,000
周年事業等引当金資産	0	1,425,035	0	1,425,035
小計	7,993,050	1,479,035	6,115,050	3,357,035
合計	8,539,794	7,253,434	9,569,590	6,223,638

Ⅳ 基本財産及び特定資産の財源の内訳
基本財産及び特定資産の財源の内訳は、次のとおりである。

（単位：円）

科目	当期末残高	（うち指定正味財産からの充当額）	（うち一般正味財産からの充当額）	（うち負債に対応する額）
【基本財産】				
基本財産	2,866,603	0	2,866,603	－
小計	2,866,603	0	2,866,603	－
【特定財産】				
職員退職給付引当金資産	1,932,000	－	－	1,932,000
周年事業等引当金資産	1,425,035	－	－	1,425,035
小計	3,357,035	－	－	3,357,035
合計	6,223,638	0	2,866,603	3,357,035

付属明細書

Ⅰ　基本財産及び特定資産の明細

（単位：円）

区分	資金の種類		期首帳簿価額	当期増加額	当期減少額	期末帳簿価額
基本財産	普通預金	呉信用金庫	244,790	3,842,496	2,594,295	1,492,991
	普通預金	もみじ銀行	100,978	1,591,771	714,430	978,319
	普通預金	広島銀行	200,976	340,132	145,815	395,293
	定期預金	呉信用金庫	0	0		0
	基本財産計		546,744	5,774,399	3,454,540	2,866,603
特定財産	JC基金 （定期預金）	呉信用金庫	6,115,050	0	6,115,050	0
	退職給付引当金 （定期預金）	広島銀行	1,878,000	54,000	0	1,932,000
	周年事業等引当金 （普通預金）	呉信用金庫	0	1,425,035	0	1,425,035
	特定資産計		7,993,050	1,479,035	6,115,050	3,357,035

Ⅱ　引当金の明細

（単位：円）

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
職員退職給付引当金	1,878,000	54,000	0	0	1,932,000

財産目録

2012年12月31日現在

（単位：円）

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
（流動資産）	現金	手元保管	運転資金として	259,140
	預金	【普通預金】 呉信用金庫 もみじ銀行 広島銀行	 運転資金として 運転資金として 運転資金として 〈現金・預金計〉	 1,492,991 978,319 395,293 3,125,743
	未収金	正会員6名 OB会員12名	当会計期間内に会員が納入すべき会費・入会金の未収分である 〈未収金計〉	2,024,600 2,024,600
流動資産合計				5,150,343
（固定資産） 特定資産	預金	【定期預金】 広島銀行	【職員退職給付引当金資産】 職員退職給付引当金見合いの引当資産として管理している	1,932,000
		【定期預金】 呉信用金庫	【周年事業等引当金資産】 周年事業等引当金見合いの引当資産として管理している 〈特定資産計〉	1,425,035 3,357,035
固定資産合計			*うち引当資産*	3,357,035 *3,357,035*
資産合計				8,507,378
（流動負債）	未払金	ナウ・クリエイト	管理費（消耗品費）として計上したはっぴ代の未払分である	200,000
	供託金	正会員	正会員個人が負担すべき登録料等の支払いのための預り金である 〈未払金・供託金計〉	180,000 380,000
流動負債合計				380,000
（固定負債）	職員退職給付引当金	職員分	【職員退職給付引当金】 公益目的事業及び管理目的の業務に従事する職員の退職給付金 〈職員退職給付引当金計〉	1,932,000 1,932,000
固定負債合計				1,932,000
負債合計				2,312,000
正味財産				6,195,378

（注）　2012年度期首及び期末の公益目的保有財産額の合計は次のとおりである

（単位：円）

期首	7,989,877
期末	1,800,000

監査報告書

社団法人 呉青年会議所
理事長　宮下　佳昌　　殿

2013年1月28日

社団法人　呉青年会議所
監事　増木孝行
監事　吉田真也

私たち監事は、2012年1月1日から2012年12月31日までの事業年度の理事の職務の執行を監査しました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決済書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその付属明細書並びに財産目録について検討いたしました。

2 監査意見

(1)　事業報告等の監査結果

一、　事業報告は法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。

二、　理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しく若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2)　計算書類及びその附属明細書並びに財産目録の監査結果計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

監査報告書

社団法人 呉青年会議所
理事長　宮下　佳昌　　殿

2013年1月28日

広島県呉市中通2丁目4番14号

武安会計事務所
監査人・税理士　武安紘二

上記、社団法人呉青年会議所2012年度収支決算報告書に関して本職は補助者2名をもって、社団法人呉青年会議所会計全般における現金の実査、預貯金の残高確認。諸帳簿の記帳確認、証憑書類、関係書類の照合確認等監査致しました結果、すべて適正・適法に処理が為されて且つ上記のとおり正当に表示されていることを認めます。